

34	「フランス」國「オーストリー」國間協定	一九
35	「ドイツ」國「ハンガリー」國間協定	二〇
36	「スウェーデン」國「フランス」國間協定	二〇
37	「チリ」國「ペルー」國間條約	二〇
38	「ルーマニア」國「ポーランド」國間條約	二〇
39	「オランダ」國「チェコスロヴァキア」國間協定	二一
40	「フィンランド」國「ハンガリー」國間條約	二二
41	「フィンランド」國「エストニア」國間協定	二四
42	「アルゼンティン」國「チリ」國間條約	二四
43	「アルゼンティン」國「チリ」國間條約	二四
44	「アルゼンティン」國「チリ」國間條約	二五
45	「アルゼンティン」國「チリ」國間議定書	二五
46	「ドイツ」國「イタリア」國間協定	二六
47	「ドイツ」國「スペイン」國間協定	二六

第  
一  
表



B、C、D、E

「エストニア」 「國」	「スペイン」 「國」	「デンマーク」 「國」	「チリ」 「國」	「ブルガリア」 「國」	「ブラジル」 「國」
「フィンランド」 「國」	「ドイツ」 「國」	「フランス」 「國」	「アルゼンティン」 「國」 「アルゼンティン」 「國」 「アルゼンティン」 「國」	「ポーランド」 「國」	「ウルグァイ」 「國」 「アルゼンティン」 「國」 「アルゼンティン」 「國」
41	47	15	44 42 30	28	22 20 5
			「ベルギー」 「國」 「アルゼンティン」 「國」 「アルゼンティン」 「國」	「チェコスロヴァキア」 「國」	「アルゼンティン」 「國」 「アルゼンティン」 「國」 「ウルグァイ」 「國」
			45 43 37	32	23 21 19

國名

相手國名

番號

相手國名

番號

F、H、I、L

「フィンランド」國	「ハンガリー」國	40	「エストニア」國	41
「フランス」國	「イタリア」國 「ユーゴスラヴィア」國 「ルクセンブルグ」國 「チェコスロヴァキア」國 「ベルギー」國 「オーストリー」國	34 13 8 6 3 1	「ルーマニア」國 「ベルギー」國 「ポーランド」國 「ノールウェー」國 「デンマーク」國 「スウェーデン」國	36 15 12 7 4 2
「ハンガリー」國	「ポーランド」國 「オーストリー」國 「フィンランド」國	40 27 24	「イタリア」國 「ドイッチ」國	35 26
「イタリア」國	「フランス」國 「オーストリー」國 「ドイッチ」國	46 25 1	「ドイッチ」國 「ハンガリー」國	26 17
「ルクセンブルグ」國	「フランス」國	6	「ベルギー」國	9

「スウェーデン」國	「ルーマニア」國	「ポーランド」國	「ペル」國	「オランダ」國	「ノールウェー」國	國名
「ポーランド」國 「フランス」國	「フランス」國 「ポーランド」國	「フランス」國 「ユーゴスラヴィア」國 「ブルガリア」國 「ルーマニア」國	「アルゼンティン」國	「ベルギー」國	「フランス」國	相手國名
36 29	38 2	38 28 18 7	31	11	12	番號
「チェコスロヴァキア」國	「チェコスロヴァキア」國	「ベルギー」國 「ハンガリー」國 「スウェーデン」國	「チリ」國	「チェコスロヴァキア」國		相手國名
33	16	29 24 10	37	39		番號

T、U、Y

「チェコスロヴァキア」國	「フランス」國 「ルーマニア」國 「スウェーデン」國	8 16 33	「ユーゴスラヴィア」國 「ブルガリア」國 「オランダ」國	14 32 39
「ウルグァイ」國	「ブラジル」國	5	「ブラジル」國	23
「ユーゴスラヴィア」國	「フランス」國 「ポーランド」國	3 18	「チェコスロヴァキア」國	14

第  
二  
表



諸外國間文化條約一覽表 (署名年月日順)

番号	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内容	備考
1	「イタリヤ」 「フランス」 「フランス」	教授及生徒 交換ニ關ス ル協定	一九一九、一、二九 「ローマ」 一九一九、三、五 「バリ」	ナシ	教授、學生、生徒交換 専門委員會設置 私的學者及學識アル者ノ交換 交換教授ノ服務規則、人事規定及報酬規 定 中等學校生ニ關スル特別規定 相手國學生生徒ノ資格認定及免除 休暇講座ノ獎勵 修學旅行ニ對スル便宜供與 國立圖書館、研究所及學校ニ對スル本協 定ノ擴張適用	十五箇條ヨリ成ル (以下之ニ準ズ)
2	「フランス」 「ルーマニア」 「ルーマニア」	「フランス」 國政府ニ依 リ「ルーマ ニア」國政 府ニ派遣セ ラルル大學 職員ノ詮 衡、身分及 待遇ニ關ス ル條約	一九一九、六、一五 「ブカレスト」 一九二三、一、四 「ブカレスト」	ナシ	佛國人教授詮衡ノ方法 佛國人教授ノ待遇(俸給、免除、旅費ニ 關スル規定、服務時間) 「ルーマニア」國政府及佛國人教授間ノ契 約ノ期限 職員ノ監督、昇進及昇給	六箇條
3	「フランス」 「ユーゴ」	學事條約	一九二〇、三、五 「バリ」	ナシ	派遣佛國人教授ノ待遇(俸給、割増金、 免除、旅費、契約ノ期限、昇進、昇給) 詮衡委員會組織	七箇條

1、2、3

8	7	6	5	4	號番
「チェッコス ロヴァキア」	「フランス」 「ポーランド」 「ド」國	「フランス」 「ルクセン ブルグ」國	「ウルグァ イ」國 「ブラジル」 國	「ベルギー」 國 「フランス」 國	締約國名 スラヴィア
學術、文學 及學事關係	協 定	學術、文學 及學事關係 ニ關スル協 定 同協定附屬 聲明	教授及生徒 交換ニ關ス ル協定	學術、文學 及學事關係 ニ關スル協 定	條約名
一九二三、 六、二五 「バリ」	一九二三、 五、九 「ワルソー」 一九二三、 六、一 「バリ」	一九二三、 四、二〇 「バリ」	一九二一、 八、一 「モンテヴィデオ」	一九二一、 六、一七 「バリ」	署名年月日
期限條項 ナシ	期限條項 ナシ	期限條項 ナシ	無期限 但シ廢棄 通告ノ日 ノ後一年 間有效	期限條項 ナシ	有効期間
教授交換 學生生徒ノ學力認定、資格證明	教授交換 學生生徒ノ學力認定、資格證明 專門委員會	教授及學者交換 學生交換 相手國學生ノ學力認定、資格證明 常設混合委員會 (常設混合委員會委員數)	交換教授ニ關スル規定(便宜供與、講義又 ハ講演ノ内容、題目選擇、教授ノ報酬) 相手國學生ノ受クベキ利益、勉學ノ條 件 協定實施費用ノ分擔	教授及學者交換(昇進、榮典、特權ノ享 受、俸給及免除) 生徒交換(學年及資格認定) 常設混合委員會(組織及權限)	內 容
十箇條	十四箇條	十一箇條 「ル」國下院ノ承 認ヲ留保	八箇條 批准條項	三章十四箇條	備 考

9、10、11

<p>9 國「ベルギー」 國「ルクセンブルグ」</p>	<p>10 國「ベルギー」 國「ポーランド」</p>	<p>11 國「オランダ」 國「ベルギー」</p>
<p>ニ關スル聲明</p>	<p>協定</p>	<p>智的關係ニ關スル協定</p>
<p>一九二四、四、三〇 「パリ」</p>	<p>一九二五、九、一 「ワルソー」</p>	<p>一九二七、一〇、二六 「ブラッセル」</p>
<p>期限條項 ナシ</p>	<p>一年 右期間滿了後廢棄セラレザルトキハ無期限ニ延長セラレ何時ニテモ廢棄シ得但シ右廢棄通告ノ日ノ後三月間有效</p>	<p>三年 但シ右期間滿了後廢棄セラレザルトキハ更ニ三年有效</p>
<p>專門委員會</p>	<p>教授交換 學生交換 相手國學生生徒ノ學力認定、資格證明 專門委員會</p>	<p>一般的規定 專門委員會 教授交換 獎學資金</p>
<p>三章十一箇條 「ル」國下院ノ承認ヲ留保</p>	<p>十四箇條 批准條項</p>	<p>五章十一箇條 批准條項</p>

九

16	15	14	13	12	號 番
「チエッコス ロヴァキア」 國 「ルーマニ 國」	「デンマー ク」國 「フランス」 國	「ユーゴー スラヴィア」 國 「チエッコス ロヴァキア」 國	「ベルギー」 國 「フランス」 國	「フランス」 國 「ノールウェ ー」國	締約國名
學事及智的 關係ニ關ス ル取極	學術、文學 及學事關係 ニ關スル協 定	學事及文化 關係ニ關ス ル聲明	條 約	協 定	條約名
一九三〇、一、二一 「ブラーグ」 一九三〇、三、一 「ブカレスト」	一九三〇、一、一四 「バリ」	一九二九、一一、一三 「ベルグラード」	一九二九、五、三〇 「ブラッセル」	一九二七、一一、二一 「バリ」	署名年月日
署名後直 ニ效力發 生 期限條項	一九三〇 年一月一 五日ヨリ 效力發生 一年ノ豫 告ヲ以テ 廢棄シ得	期限條項 ナシ	期限條項 ナシ	期限條項 ナシ	有効期間
學事及智的 關係緊密化ニ關スル一般 的規定 教授交換 語學及文化講座ノ維持、 設置	大學間ノ講義及講演ノ交換 大學ニ於ケル講師ノ任命 佛國「リセー」ヘノ生徒及 教授派遣 試驗資格認定 特定職業從事ニ關スル國 內法規不變更ノ原則	文化關係強化ニ關スル一般 的規定 兩國ノ文化機關及團體間 ノ協力 政府ニ依ル豫算支出及行政 的措置ノ採用	「ベルギー」國在住ノ佛國 人子弟及「フランス」國 在住ノ白國人子弟ノ小學 校及實業學校入學許可	教授及講師交換 相手國學生ノ資格認定及 學位 常設專門委員會	內 容
十七箇條	四箇條	三箇條	三箇條	十五箇條	備 考

<p>17 「ドイツ」國 「イタリア」國</p>	<p>「ア」國</p>
<p>協</p>	
<p>定 一九三〇、一〇、一一 「ローマ」</p>	
<p>期限條項 ナシ</p>	<p>ナシ</p>
<p>「ロヴィノ」ニ於ケル海洋生物學研究所ノ 設立及經營ニ關スル一九三〇年二月二五 日附「イタリア」王立海洋學委員會及「カ イザー、ウイヘルム」科學振興協會間取 極ノ承認、右研究所ノ認定及右取極ニ基 ク相互的義務履行ノ約定 附屬、「ロヴィノ」ニ於ケル海洋生物學研 究所ニ關スル「イタリア」王立海洋學委員 會及「カイザー、ウイヘルム」科學振興 協會間取極（一九三〇年二月二五日「ベ ルリン」ニ於テ締結）（十七箇條）</p>	<p>語學教授 圖書館ノ設置及充實 學生生徒ノ集團旅行ニ對スル便宜供與 兩國文化研究所ノ設置 出版物交換 寫本、「フィルム」交換 獎學資金設定 語學講習會助成 文學的著作物翻譯ノ公刊 相手國語教授書公刊ノ獎勵 國家的祝祭日及作家、學者、藝術家等ノ 記念日ノ慶祝 藝術家ノ巡業、藝術展覽會ノ獎勵 學生生徒ノ學力認定、資格證明 常設委員會</p>
<p>三箇條 批准條項</p>	

20	19	18	號 番
「ブラジル」國 「アルゼンティン」國	「ブラジル」國 「アルゼンティン」國	「ポーランド」國 「ユーゴスラヴィア」國	締約國名
歴史及地理教科書修正ノ爲ノ協定	智的交換條約	取 極	條約名
一九三三、一〇、一〇 「リオ、デ、ジャネイロ」	一九三三、一〇、一〇 「リオ、デ、ジャネイロ」	一九三二、一二、二 「ワルソー」	署名年月日
無期限 但シ六月ノ豫告ヲ以テ廢棄シ得	無期限 但シ六月ノ豫告ヲ以テ廢棄シ得	五年 六月ノ豫告ヲ以テ右期間満了ノトキ廢棄セラレザルトキハ新ニ五年ノ期間默示的ニ延長セラレタルモノト看做サレ爾後之ニ準ズ	有効期間
歴史教科書ノ校閲 地理教科書ニ最近ノ統計ノ附掲及該教科書ノ訂正 他ノ米洲國ノ本協定加入ニ關スル規定	教授等ノ講演及旅行ニ對スル便宜供與 學生ノ旅行ノ促進及見學學生團ノ交換 他ノ米洲國ノ本協定加入ニ關スル規定	專門委員會ノ設置（組織、機能及目的） 小、中學教育機關代表者間ノ頻繁ナル接觸 學生生徒ノ學力及資格認定 生徒交換ニ對スル便宜供與 教授等交換 學術、文學、藝術、演劇、無線放送代表者間關係ノ助成 休暇講習會、觀光旅行團、休暇青少年團、學生團體、展覽會、演劇家及著名文學者ノ巡回公演及講演ノ組織 學術出版物ノ交換 文學的傑作翻譯ノ普及助成 學術研究所、公立圖書館及國民教育機關ノ關係増進	内 容
四箇條 批准條項	六箇條 批准條項	六箇條 批准條項	備 考

	21	22	23	24	25
	「ブラジル」 「アルゼン ティン」國	「ブラジル」 國 「アルゼン ティン」國	「ブラジル」 國 「ウルグ アイ」國	「ハンガ リ」國 「ポー ランド」國	「イタリ ア」國 「オー スト リー」國
	藝術的交換 ニ關スル條 約	出版物交換 ニ關スル協 定	藝術的交換 ニ關スル條 約	智的協力ニ 關スル條約	文化關係増 進ノ爲ノ條 約
	一九三三、一〇、一〇 「リオ、デ、ジ ャネ イロ」	一九三三、一〇、一〇 「リオ、デ、ジ ャネ イロ」	一九三三、一二、二〇 「モンテ ヴィ デオ」	一九三四、一〇、二二 「ワ ルソ ー」	一九三五、二、二二 「ロー マ」
	無期限 但シ六月 ノ豫告ヲ 以テ廢棄 シ得	無期限 但シ六月 ノ豫告ヲ 以テ廢棄 シ得	無期限 六月ノ豫 告ヲ以テ 廢棄シ得	期限條項 ナシ	無期限 廢棄ハ十 年ノ期間 満了前々 ルヲ得ズ 但シ廢棄 通告ノ日 ノ後六月
	美術及應用美術品展覽會ノ開催（構成、開 催中ニ於ケル各種催物、經費負擔、關 稅免除等）	自國圖書館ニ相手國ニ關スル研究室ノ設 置及右ニ對スル圖書ノ提供 相手國外交使節ニ對スル出版物ノ提供 博物館ノ間ニ於ケル著作物等交換事業ノ 維持	毎年相手國首府ニ於テ美術及應用美術展 覽會開催（展示内容、催物、費用、關稅 其ノ他ノ課稅免稅）	自國ニ於ケル相手國學術協會ノ設置 教授及高等專門學校學生交換ノ獎勵及便 宜供與 文學的、學術的傑作品ノ翻譯助成 混合委員會設置（組織、權限）	「ウィ ーン」ニ「イ タリ ア」文化協會並ニ「ロ ーマ」ニ「オ ース ト リー」文化協會ノ創設 兩國政府ノ右ニ對スル各種助成、免除 兩國ノ歴史、文學及文化史講座、其ノ他 特別講座ノ設置 教授等ノ交換 語學講師ノ採用 「オースト リー」中 等學校等ニ 於ケル「イ
	七箇條 批准條項	六箇條 批准條項	七箇條 批准條項	四箇條 批准條項	十九箇條 批准條項

21、22、23、24、25

番号	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内容	備考
26	「イタリア」 「ハンガリー」 「羅馬」	文化條約	一九三五、二、一六	批准書交換ノ日ヨリ十年ニシテ廢棄シ得廢棄通告ノ日ノ後六月間有效但シ兩國ノ研究所及學校ニ付與セラレタル便宜ハ本協定實施ノ後三十年間維持セラル	<p>「イタリア」語ノ教授 「オーストリー」大學等ニ於ケル「イタリア」人學生ニ對スル便宜供與 生徒ノ交換、講習會出席、獎學金設定、修學旅行ニ對スル便宜供與 美術、音樂、演劇、映畫、放送交換、圖書ノ貸與、普及ニ對スル便宜供與</p> <p>「羅馬」ニ於ケル「ハンガリー」研究所ノ維持及「ブダペスト」ニ於ケル「イタリア」研究所ノ開設、此等研究所等ニ對スル便宜供與及免除 獎學資金ノ設定 夏期講習會參加ノ獎勵 學生ノ休暇野營組織 相手國ノ歴史及文學講座ノ委囑及維持 相手國語學講座ノ維持、開設 語學講師ノ派遣 研究室ノ委囑、維持 教授ノ交換 中等學校ニ於ケル語學教授及中等學校教科目中ニ相手國事情ノ研究ヲ包含セシムルコト 翻譯ノ爲メ學術的、文學的著作物ノ表ノ交換 演劇及映畫上演及上映ノ獎勵 記録保有、圖書閱覽ニ關スル便宜供與</p>	二十箇條 批准條項



27、28	<p>28</p> <p>「ブルガリア」 「ポーランド」 「アールラン」 「ド」</p> <p>條約</p> <p>一九三五、四、八 「ワルソー」</p> <p>五年 右期間満了ノ六月 前ニ廢棄 ノ豫告ナ キトキハ</p>	<p>27</p> <p>「ハンガリー」 「オーストリー」</p> <p>協定</p> <p>一九三五、三、四 「ウィーン」</p> <p>無期限 廢棄通告 ノ日ノ後 六月間有 效</p>	<p>相手國ニ關スル圖書資料ノ增強 見學旅行團ノ助成 藝術展覽會ノ援助 出版物ノ交換保障及便宜供與 放送番組ノ交換及放送中繼</p>
	<p>智的協力混合委員會ニ關スル規定(組織、 權限、任務等)</p>	<p>「ウィーン」ニ於ケル「ハンガリー」研究所 ノ維持 「ウィーン」大學ニ於ケル「ハンガリー」歴 史、文學講座ノ開設 學生等ニ對スル獎學資金ノ給與ニ關スル 諸規定 學生ノ夏期講習會參加獎勵 學生ノ休暇野營、修學旅行團ノ組織及便 宜供與 相手國國語講師ノ認可 教授交換ニ關スル諸規定 學術的、文學的著作物ノ表ノ交換 學術問題ノ合議檢討 劇作品、映畫ノ演出及上映ノ助成 中繼放送、相手國文化ニ關スル放送 藝術展覽會ノ助成 出版物交換ノ保障 公文書資料ノ利用許可</p>	<p>十四箇條 批准條項</p>
	<p>六箇條 批准條項</p>		

號 番	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内 容	備 考
29	「スウェーデン」國 「ポーランド」國	智的協力ニ 關スル議定 書	一九三五、六、七 「ワルソー」	期限條項 ナシ	兩國關係ノ歴史的研究ノ獎勵及便宜供與 文學的、學術的著作物翻譯ノ助成 講演及講義ヲ行ハシムル爲ノ教授交換ノ 獎勵及便宜供與 委員會ノ設置	三項
30	「アルゼン ティン」國 「チリ」國	智的交換條 約	一九三五、七、二 「ブエノス、アイレ ス」	無期限 但シ廢棄 通告ノ日 ノ後六月 間有效	教授ヲ交換シ且新聞記者、學生等ノ派遣 ニ對シ便宜供與 平和事業團體又ハ社會事業團體ノ活動ト 其ノ加盟者ノ活動トヲ調整スベキ目的ヲ 有スル學生聯合會ニ對スル便宜供與	五箇條 批准條項
31	「アルゼン ティン」國 「ベルー」國	智的交換ニ 關スル條約	一九三五、七、二 「ブエノス、アイレ ス」	無期限 但シ廢棄 通告ノ日 ノ後六月 間有效	見學、講演、聽講等ノ目的ヲ有スル教授、 學生ノ旅行ニ對スル便宜供與 學術的、文學的及新聞記者協會等ノ間ノ 交換ノ獎勵 大學、高等專門學校等ニ依ル學生ノ旅行 援助	五箇條 批准條項
32	「ブルガリ ア」國 「チエッコス ロヴァキア」	學事及智的 關係ニ關ス ル聲明	一九三五、一一、八 「ブラーグ」 一九三五、一二、一九 「ソフイア」	期限條項 ナシ	教授等交換制度組織ニ關スル諸規定 相手國ノ語學講座ノ高等專門學校等ニ於 ケル設置、維持 「チエッコスロヴァキア」國文部省ヨリ「ソ	十二箇條



號 番	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内 容	備 考
34	「フランス」 「オースト リー」國	智的及藝術 的關係ニ關 スル協定	一九三六、四、二 「ウィーン」	無期限 但シ六月 ノ豫告ヲ 以テ廢業 シ得	<p>「ウィーン」ニ於ケル「フランス」文化研究 所ニ對スル「フランス」國政府ノ配慮及右 研究所ニ完修評議會設置 「オーストリー」國政府ニ依ル「パリ」ニ於 ケル兩國間諸文化關係増進ヲ任務トスル 施設ノ設置及右設置ノ爲ノ委員會 教授等交換制度 自國大學等ニ於ケル語學講師ノ雇備 相手國學生ノ平等待遇 學生生徒ノ交換並ニ團體旅行ノ獎勵及便 宜供與 學者、教授等ニ對スル特別研究所ニ於ケ ル研究室交換ノ獎勵及「フランス」國殖民 地内ニ於ケル「オーストリー」學者ノ旅行 ニ對スル便宜供與 中等學校卒業生ノ相手國高等專門學校へ ノ入學、修學及學位取得 特殊職業従事規則適用 中等學校ニ於ケル相手國國語教授ノ維持 美術展覽會、音樂會、演劇會、無線放送、 映畫交換等ニ依ル藝術作品ノ交換獎勵 圖書館、記録所間ニ於ケル書籍、寫本等</p>	十六箇條 批准條項

<p>35</p> <p>「ドイツ」國 「ハンガリ」國</p>	<p>智的及文化 的協力ニ關 スル協定</p>	<p>一九三六、五、二八 「ベルリン」</p>	<p>無期限 但シ六月 ノ豫告ヲ 以テ廢棄 シ得</p>	<p>ノ交換獎勵 記錄ノ補充、散逸防止等ノ措置 必要ナル場合ニ於ケル特別委員會ノ設置</p> <p>兩國間文化關係ノ助成ニ資スベキ文化 的、學術的施設ノ發展及維持 相手國ノ語學、文學ノ講座ノ維持及講師 ノ任命 教授交換 相手國ノ學者ニ對スル研究室ノ使用許可 學生交換 休暇講座參加 獎學資金ノ給與 實習生交換</p> <p>青少年ノ見學旅行、會議及共同露營 學生及青少年團ニ對スル便宜供與 翻譯及普及ノ爲ニ望マシキ學術的及文學 的著作物ノ表ノ交換 學術的及文學的ノ新シキ著作物ニ關スル 報告ノ發表 公的出版物、報告ノ交換増進 相手國ニ關スル圖書ノ増加、圖書館ノ利 用及便宜供與 著述家、藝術家等ノ活動獎勵 映畫ノ交換及共同製作 學術及藝術展覽會ノ開催及助成 相手國放送局ノ放送番組及文化ニ關スル 放送ノ獎勵 本協定實施ニ必要ナル外貨獲得ニ伴フ困 難ノ除去 獨混委員會ニ關スル事項</p>	<p>二十三箇條 批准條項</p>
-------------------------------------	---------------------------------	-----------------------------	--	---	-----------------------

號番	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内 容	備 考
36	「スウェーデン」國 「フランス」國	學術的、文學的及學事的關係ニ關スル協定	一九三六、六、三 「パリ」	ナシ	教授、講師等ノ交換(授業、講演、特典、俸給、免除) 試験、學位及學力認定(大學生試験資格者及「バカロレア」資格者ニ關スル件)	二章十箇條
37	「チリ」國 「ペルー」國	高等教育教授ノ交換ニ關スル條約	一九三六、七、五 「サンチアゴ」	ナシ	高等專門學校教授ノ交換並ニ新聞記者及學生ノ訪問援助ニ關スル規定(人數、便宜供與、講演、費用負擔並ニ學生聯合會、平和及社會事業團體間ノ連絡等)	四箇條
38	「ルーマニア」國 「ポーランド」國	智的協力ニ關スル條約	一九三六、一一、二七 「ワルソー」	ナシ	兩國間關係研究助成ノ目的ヲ以テスル學術團體ノ組織 教授、學生、生徒、運動團體、青少年團體交換ノ助成及便宜供與 文學的、學術的傑作ノ翻譯助成 學畫及放送關係者間ノ關係及協力増進 教材内容ノ友好的編輯及右ノ爲ニスル情報交換 藝術展覽會、演劇上演映畫上映ノ助成 放送番組ノ交換及相手國文化ニ關スル特別放送ノ獎勵 協定實施ノ爲ノ混合委員會ニ關スル規定	六箇條 批准條項 附屬調書二
39	「オランダ」國 「チェコスロヴァキア」國	智的及藝術的關係ノ増進強化ニ關スル協定 (交換公文)	一九三七、五、二〇 五、二五 「ヘーグ」	一九三七年五月二日ヨリ ナシ	兩國ノ學術的、文學的及藝術的關係ノ増進、獎勵並ニ右ニ對スル便宜供與 自國大學ニ於ケル相手國國語ノ講座組織ノ獎勵 講演又ハ特別講義ヲ行フベキ教授等交換	附屬書十四項目 本協定ハ蘭領「インド」、「スリナム」及「キュラサオ」ニモ適用セラル

<p>40 「フィンランド」國 「ハンガリー」國</p>		
<p>智的協力ニ 關スル條約</p>		<p>附屬書)</p>
<p>一九三七、一〇、二二 「ブダペスト」</p>		
<p>無期限 廢棄通告 ノ日ノ後 六月間有 效</p>		
<p>「ハンガリー」國政府ニ依ル「ヘルシンキ」 大學「ハンガリー」文化協會ニ對スル補助 金ノ下附繼續及「ブダペスト」ノ「フィン ウグリアン」協會ノ維持發展 相手國國語教授ノ爲ノ相手國人講師ノ雇 備 混合委員會ノ研究助成 學術團體及學術會議ノ援助 兩血族國民ノ爲ノ授業實施 相手國國際日ノ慶祝 教授、學者等ニ對スル獎學資金ノ給與及 其ノ研究助成</p>	<p>換 研究旅行ノ獎勵及便宜供與 獎學金受領學生ノ交換ニ對スル便宜供 與 相手國大學聽講料ノ免除、割引等 學術的、文學的著作物ノ相手國國語ヘノ 翻譯助成 主要圖書館ニ於ケル相手國特別室ノ發展 助成 公的出版物ノ定期交換助成 學校教科書ノ訂正 各種藝術作品ノ交換 兩國文化關係増進ノ使命ヲ有スル協會ノ 活動ノ獎勵及活動ニ對スル便宜供與 學生交換 圖書館、記錄所間ニ於ケル圖書、寫本ノ 相互貸與ノ助成</p>	
	<p>十六箇條 批准條項</p>	

號 番	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内 容	備 考
41	「フィンランド」國 「エストニア」國	智的協力ニ 關スル協定	一九三七、一二、一 「ヘルシンキ」	無期限 廢棄通告 ノ日ノ後 六月間有 效	<p>大學、專門學校教職員ノ交換 學生ニ對スル獎學金給與及給費學生ノ學 修規程 學生ノ夏季講習、夏季野營參加ノ獎勵 學生聯盟等ノ援助 教科書ノ友好的且正確ナル編輯及右目的 ノ爲ニスル情報交換 學術的、文學的著作物ノ表ノ交換及翻譯 刊行ニ對スル便宜供與 演劇上演、映畫上映ノ推薦 展覽會組織ノ援助 中繼放送及相手國文化ニ關スル放送ノ配 慮 官廳出版物、學術研究所ノ定期刊行物ノ 交換助成 圖書館ニ於ケル相手國ニ關スル文獻ノ增 加、相手國國民ノ圖書館ノ利用許可及便 宜供與 兩國圖書館、記錄所間ニ於ケル圖書貸與 ノ助成等 運動、競技ニ依ル協力及接觸ノ助成及便 宜供與 芬洪混合委員會組織</p>	十八箇條 批准條項



學術會議ノ援助、「フイニッシュ・ユグリア」文化會議ノ援助  
 血族國民ノ爲ノ講義實施  
 學校ニ於ケル相手國國際日ノ慶祝  
 相手國學者ノ研究援助、教授交換ノ獎勵  
 學生ニ對スル獎學資金ノ給與及學修規則  
 學生ノ夏期講習會參加  
 研究旅行、學生交換ノ援助  
 教科書ノ正確且友好的編輯及右目的ノ爲  
 ニスル情報ノ相互供與  
 學校教師ノ相手國國語研究ノ獎勵  
 自國在留相手國人ニ對スル語學教育ノ機會付與  
 翻譯ノ爲ニスル學術的、文學的著作物ノ  
 目錄ノ相互呈示及翻譯出版ノ援助  
 演劇上演、映畫上映ノ推薦  
 美術展覽會開催ノ援助  
 兩國音樂的關係ノ強化  
 放送番組ノ交換及相手國文化ニ關スル放送ノ配慮  
 學術的官廳出版物ノ交換援助  
 自國圖書館ニ於ケル相手國關係文獻ノ增加、相手國民ノ平等待遇  
 兩國圖書館、記錄所間ニ於ケル圖書、寫本ノ借用獎勵  
 學生生徒ニ對スル獎學金ノ給與  
 混合委員會ノ設置

號 番	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内 容	備 考
42	「アルゼンティン」國 「チリ」國	國內及南米ノ歴史及地理ノ教授及教科書ノ檢閱ニ關スル條約	一九三八、六、三 「ブエノス、アイレス」	無期限 廢棄通告 ノ日ノ後 六月間有 效	南米ノ史的協和關係特ニ兩締約國間ニ於ケル傳統的親善關係強化ノ目的ヲ以テ「サンティアゴ」市及「ブエノス、アイレス」市ニ兩國及南米歴史地理教授及教科書ノ檢閱委員會ノ設置、組織、任務	四箇條 批准條項
43	「アルゼンティン」國 「チリ」國	教授、操觚者、藝術家、科學者、技術家及定期刊行物發行者並ニ大學生交換ニ關スル條約	一九三八、六、三 「ブエノス、アイレス」	無期限 廢棄通告 ノ日ノ後 六月間有 效	大學其ノ他ノ文化協會ノ發意ニ依リ教授、操觚者、藝術家、科學者、技師等ヨリ成ル委員會ヲ組織シ相手國學徒ニ對スル講習及講演ヲ行ハシム 新聞記者ニ依ル相手國ノ文化事業等ノ報道	三箇條 批准條項
44	「アルゼンティン」國 「チリ」國	著作物ノ交換並ニ「サンティアゴ」及「ブエノス、アイレス」ノ國立圖書館内ニ特別室創設ニ關スル條約	一九三八、六、三 「ブエノス、アイレス」	無期限 廢棄通告 ノ日ノ後 六月間有 效	「ブエノス、アイレス」市國立圖書館内ニ「チリ」圖書館、「サンティアゴ」市國立圖書館内ニ「アルゼンティン」圖書館ノ設置 右兩圖書館ニ對スル二千部ノ著作物ノ寄贈並ニ新刊重要著作物及雜誌ノ定期寄贈	三箇條 批准條項

<p>46 「ドイツ」國 「イタリヤ」 國</p>	<p>45 「アルゼン ティン」國 「チリ」國</p>
<p>文化的協力 ニ關スル協 定</p>	<p>議 定 書</p>
<p>一九三八、一一、二三 「ローマ」</p>	<p>一九三八、六、三</p>
<p>無期限 但シ一年 ノ豫告ヲ 以テ廢棄 シ得</p>	<p>三期 期限條 項 ナシ</p>
<p>「ドイツ」學、「ローマ」學、相手國ノ語 學、文學講座ノ維持充實、右講座擔任教 授ノ任命、招聘、語學講師ノ任命援助 相手國學者ノ自國大學等ニ於ケル講演、 講義ノ獎勵 教授等ノ交換 學術研究室ノ相互提供 教員交換、學生交換 實習生交換、語學講習會ノ援助、自國內 (及殖民地)ニ於ケル相手國ノ學校ノ助 成、設置 中等學校等ニ於ケル相手國ノ國語教授ノ 増強、「ナチ」黨及「ファシスト」黨ニ於ケ ル相手國ノ國語學修ノ促進 專門學校ノ入學、學修及卒業認定等ニ關</p>	<p>相手國ニ輸出セラルル非營利的書籍、繪 畫、彫刻、藝術寫真、一般藝術品等ノ搬 出入、展示等ニ對スル便宜供與(關稅、 手數料、手續、運賃ノ免除又ハ割引、其 ノ他) 人的交換、出版物交換ニ關シ密接ナル關 係持續ノ勸說 兩國ニ對スル顯著ナル功勞者「サルミエ ント」五十年祭ニ當リ胸像ノ寄贈及設置</p>
<p>三十四箇條 批准條項</p>	<p></p>

號 番	締約國名	條約名	署名年月日	有効期間	内 容	備 考
47	「ドイツ」國 「スペイン」國	精神的文化的協力の關係 的協力ニ關スル協定	一九三九、一、二四 「ブルゴス」	無期限 但シ一年ノ豫告ヲ以テ廢棄シ得	<p>スル取極ノ準備 教科書ノ內容修正 書籍雜誌ノ普及促進及各種便宜ノ供與 刊行物及其ノ表ノ交換及便宜供與 翻譯ノ促進及禁遏 圖書及寫本ノ貸與ノ促進 文學者及美術家ノ活動促進 學術及藝術展覽會ノ開催及援助 演劇、音樂、映畫及無線放送交換ノ促進 及援助 藝術家ノ交換促進 國際會議、國際文化會議等ニ於ケル協力ノ確保 「ナチス」黨及「ファシスト」黨間並ニ其ノ他ノ公的團體間等ニ於ケル文化的取極ノ效力 文化協定實施ヨリ生ズル支拂送金ニ關スル協議 獨伊文化委員會</p> <p>兩國間ノ文化的理解ノ増進ヲ目的トスル文化的、學術的施設ノ維持、設置ニ對スル好意及保護ノ付與 自國ニ於ケル相手國文化研究所ノ設立 「スペイン」國ニ「ドイツ」會館、「ドイツ」國ニ「スペイン」會館設立ニ關スル取極ヲ爲スコト 兩國ノ文化的施設ニ付與スベキ財政的特</p>	二十二箇條 批准條項

## 典ノ調査

大學機關ニ於ケル兩國ノ國語及文化ノ研究促進

相手國國語教授獎勵ノ爲大學、專門學校ニ於ケル講師ノ任命及使用教科書ノ選擇

自國大學、專門學校ニ於ケル相手國學者、專門家ノ講演促進及教授、助手ノ交換  
學術研究所内ニ於ケル相手國學者ニ對スル便宜供與

## 學生交換制度ノ實施

「アレキサンダー、フォン、フンボルト」協會ニ依ル獎學資金ノ給與

相手國大學等ニ設ケラルル夏季講座ニ對スル學生參加ノ獎勵

學生交換、研究旅行、共同野營ニ依ル兩國青年ノ親善促進、語學及文學教師ノ交換ニ對スル特別ノ考慮

自國ニ於ケル相手國ノ學校ニ對スル特別ノ保護及右學校ニ於ケル授業、卒業、補修講座ニ關スル規程

中等學校ニ於ケル相手國國語ノ教授書籍、雜誌ノ普及促進及新聞雜誌ノ交換ニ對スル便宜供與

兩國圖書館ニ相手國ノ學術、文學及現代史ニ關スル書籍支給ノ爲ニスル「ドイツ」國對外圖書交換局及「スペイン」國文部省圖書局間ノ出版物交換

適當ナル圖書ノ相手國譯ヘノ翻譯促進、翻譯セラルベキ著作物ノ表ノ送付及翻譯

號 番	締約國名	條約名	署名年月日	有效期間	內 容	備 考
					<p>出版ニ對スル指導 相手國ノ政治的亡命者ノ著作物翻譯出版ノ禁止 相手國ノ政體又ハ其ノ指導者ヲ誹謗セル著作物ノ販賣又ハ公立圖書館ニ依ル普及ノ不許可 文化及學術展覽會ノ開催及援助竝ニ展覽會用輸入品ノ關稅免除 演劇及音樂部門ニ於ケル有效ナル交換ノ確保ノ爲ノ取極締結 相手國ノ映畫特ニ文化及教育映畫ノ輸入ヲ容易ナラシムル爲ノ取極締結 相手國ニ關スル認識増進ノ爲ニスル放送ノ考慮 本協定實施ニ必要ナル外國爲替ニ關スル困難除去ノ爲ノ特別取極締結 本協定實施ノ爲ノ獨西委員會ノ設置</p>	

昭和十七年十月

日本國「タイ」國間文化協定ニ關スル説明書

極秘

外務省條約局

## 日本國「タイ」國間文化協定ニ關スル説明書

### 一、本協定締結ノ経緯

我國ト「タイ」國トノ關係ハ客年末ノ同盟條約締結以來不動ノ方針ノ下ニ愈々緊密化シ爾來經濟的協力増進ニ關スル各種問題ノ妥結等ニ依リ其ノ提携ハ益強固ト成リタルガ兩國ノ親善關係ヲ不變且堅實ナラシムルガ爲ニハ特ニ兩國相互ノ認識及理解ヲ深ムルノ緊要ナルコト論ヲ俟タズ之ガ爲ニハ兩國間ニ文化協定ヲ締結シ確固タル基礎ノ上ニ彼我ノ文化ヲ相互ニ紹介シ兩國間ノ認識及理解ヲ深ムルコト最モ有效ナリト認メ豫テヨリ右ノ趣旨ヲ「タイ」國側ニ傳ヘ來リタル處同國モ之ニ全面的ニ贊意ヲ表シタルニ依リ本年八月二十八日協定案ヲ提示シ正式ニ協定締結ヲ提案シタル處「タイ」國側ニ於テモ何等重大ナル異議ナク急速妥結ニ達シ本年十月二十八日調印セラレタルモノナリ

### 二、本協定ノ内容

#### (一) 前文

兩國ノ文化協力ノ建前トシテ兩國文化ノ本然ノ特質ヲ相互ニ尊重シツツ兩國間ノ文化關係ヲ更ニ増進スル爲緊密ニ協力スルコトヲ明確ニシテ東亞文化ノ興隆ニ貢獻スルニ努力シ併セテ兩國間ニ既ニ存在スル友好關係ヲ一層強固ナラシメンコトヲ欲スル旨ヲ述ベ本文化協定締結ノ大目



標ヲ示シタリ

(二) 本文

其ノ全體ヲ通ジ兩國ハ平等ノ立場ニ於テ相互主義ニ基キ文化關係ノ増進ヲ圖ルコトヲ其ノ基調トシ各條ニ於テ夫々協力スベキ事項及態様ヲ例示的ニ列舉シ適當ナル範圍ニ於テ能フ限り具體的ニ記述スルコトトセリ

(イ) 第一條

本條ニ於テ兩國ハ其ノ文化關係ノ基礎ヲ堅實ナラシメ以テ兩國相互ノ認識及理解ヲ深カラシムルニ努メ且之ガ爲文化活動ノ有ラユル部門ニ於テ最モ緊密ニ協力スベキコトヲ規定シ前文ノ趣旨ヲ承ケ第二條以下ニ於テ具體的協力ヲ爲スベキ事項及態様ヲ總括的ニ指示スル目的ヲ明ニシタリ本條ニハ「之ガ爲文化ノ有ラユル部門ニ互リ最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ」トアル處同條ニ謂フ文化ノ内容ハ第二條以下ニ例示セラレタル通り主トシテ學術、藝術、宗教、厚生事業、青少年運動、放送、映畫等ヲ其ノ内容トスルコト勿論ナルモ此等本協定ニ列舉セラレタル部門ニ限定スルノ意ニ非ズシテ直接政治、軍事、經濟ノ分野ニ關スルモノ及他ノ條約等ニ依リ規定セラレタルモノヲ除キ廣ク兩國民ノ文化活動ノ全體ニ付支障ナキ限り本協定ノ趣旨ヲ適用セントスルモノナリ

(ロ)

第二條以下第十一條迄ハ之ヲ要約スレバ兩國ノ文化ノ向上發展ヲ圖リ其ノ文化關係ノ増進ニ資スル各種ノ事業ノ振興及施設ノ増強ニ兩國政府自ラ能フ限り努力ヲ爲スト共ニ右ノ目的ヲ有スル民間ノ活動ニ對シ兩國ガ相互ニ能フ限り便宜ヲ供與シ之ヲ助成スルニ努ムルコトヲ規定シタルモノニシテ之ヲ分説スレバ

一般的ニハ文化會議ヲ開催シ及助成スルコト(第二條)、學術其ノ他ノ文化ニ關スル團體、研究所、圖書館、博物館、學校及衛生福祉施設等ニシテ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ資スベキ施設ノ設置、維持及發展ニ努メ且之ガ爲相互ニ能フ限り便宜ヲ供與スベキコト(第三條)、日本ハ「バンコック」ニ、「タイ」國ハ東京ニ自國文化ノ紹介機關ヲ設置シ兩國文化關係ノ増進ニ寄與セシムルコト(第十一條)等ニ付規定シ、

學術ニ關スル協力ニ付テハ大學ニ於ケル他方ノ文化ニ關スル講座ノ設置、維持及充實(第四條)、交換教授(第四條)、研究員及學生ノ交換、派遣及招致(第五條)、學者及専門家ノ自國ノ文化研究ニ對スル便宜供與(第五條)、著述家ノ活動獎勵(第六條)、獎學資金ノ給與(第五條)等ニ付規定シ、

藝術關係ノ増進ノ爲ニハ各種藝術家ノ活動ノ獎勵及其ノ交換、派遣又ハ招聘ヲ行ヒ(第六條)、各種藝術作品ノ供給、紹介、普及、翻譯、複製等ニ關シ必要ナル便宜ヲ供與スルニ努メ(第七

條)且展覽會(第八條)、放送(第九條)等ヲ通ジ其ノ普及ヲ圖ルコトトセリ  
 宗教關係ニ付テハ宗教家ノ活動ヲ獎勵シ且其ノ交換、派遣又ハ招聘ヲ行フベキコト(第六條)  
 トシ、

厚生事業ニ付テハ主トシテ衛生ニ關スル非營利的ノ福祉施設ノ設置、維持及發展ニ努メ且之ガ  
 爲相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベキコト(第三條)ヲ定メタルガ、

右諸事項ノ外青少年團及運動競技選手並ニ觀光旅行團及見學旅行團ヲ交換、派遣又ハ招致スル  
 ニ努ムルコト(第十條)ヲ規定シタリ

(ハ) 第十二條

本協定ノ實施ハ常ニ兩國ノ協力ニ依リ行ハルルモノナルモ事項ノ性質上兩國政府ノミガ直接其  
 ノ實施ニ當ルコトヲ得ザルモノアル結果兩國間ノ緊密ナル連絡ニ當ラシムル目的ヲ以テ東京及  
 「バンコック」ニ夫々日「タイ」兩國官民混合ノ委員ヲ以テ構成セラルル文化連絡協議會ヲ設置  
 スルコトヲ規定シタリ右協議會ノ組織及運用ニ關スル細目ハ兩國ノ外交機關之ヲ協議決定スベ  
 キコトトシタリ

(ニ) 第十三條

本協定各條ノ具體的實施ニハ更ニ詳細ナル規定ヲ必要トスルヲ以テ本協定ノ實施ニ關スル細目

ハ兩國ノ外交機關之ヲ協議決定スルコトニ定メタリ例之第四條ノ教授交換、第五條ノ學生交換及第九條ノ定期交換放送ノ具體的實施方法ニ關スル細目等ハ本條ニ依リ協議決定セラレベキモノトス

(ホ) 第十四條

本協定ハ批准セラレベキコト、兩國ノ批准書ハ成ルベク速ニ「バンコック」ニ於テ交換セラレベキコト、本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ之ヲ實施シ且同日ヨリ十年間引續キ效力ヲ有スベキコト及兩國ノ一方ガ本協定ヲ終了セシムルノ意思ヲ右十年ノ期間滿了ノ一年前ニ他方ニ通告セザル場合ニハ兩國ノ中ノ何レカガ本協定ヲ廢棄スル通告ヲ爲シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了スルニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベキコトヲ規定シタリ

昭和十七年十月二十九日 印刷

大臣用

秘

寫

昭和十七年十一月

日本國「タイ」國間文化協定關係擬問擬答

條約局第一課

外務省

(日本標準規格B5)

- (一) 帝國ノ「タイ」國ニ對スル文化政策如何
- (二) 本文化協定ハ政治的目的ヲ有スルヤ
- (三) 本文化協定ノ眞ノ狙ヒハ何處ニアリヤ
- (四) 日獨・日伊等ノ文化協定ニ比シ規定ノ詳細ナル理由如何
- (五) 本協定ハ「タイ」國ニ對スル日本ノ活動ヲ主トスルモノナルニ双務的規定トシタル理由如何
- (六) 日獨・日伊等ノ文化協定ニ比シ本質上ノ差異アリヤ
- (七) 本協定ノ實施ニ付大東亞省及其ノ他ノ各省トノ關係如何
- (八) 本文化協定ニ對スル「タイ」國側ノ意圖如何
- (九) 本協定ハ「タイ」國ヨリ文化侵略ノ謗ヲ受クルコトナキヤ
- (十) 政府ハ將來東亞ニ於ケル他ノ國ト文化協定ヲ締結スル意思アリヤ
- (十一) 本文化協定ハ宗教ヲモ含ムモノナリヤ
- (十二) 本協定ヲ御諮詢前調印シタル理由如何
- (十三) 「タイ」國ニ於ケル最近ノ對日感情如何

- ④ 兩國文化ノ本然ノ特質ノ意義如何
- ⑤ 東亞文化ノ興隆ニ寄與スルノ意義如何
- ⑥ 文化ノ有ラユル部門（第一條）ノ意義如何
- ⑦ 文化會議（第二條）ノ目的、構成及審議題目如何
- ⑧ 文化紹介機關（第十一條）ノ意義如何
- ⑨ 外交機關（第十二條第二項）ノ意義如何
- ⑩ 本決定（第十二條第二項）ハ之ヲ樞府ニ御諮詢相成ルヤ
- ⑪ 從來ノ例ニ依レバ本條ハ權限アル官憲ガ決定スルコトトナリ居ル處今回ハ外交機關ガ決定スルコトトナリ居レリ（第十三條）其ノ理由如何
- ⑫ 外務大臣以外ノモノガ實施スベキ事項ニ付テモ外交機關ガ協議決定シ得ルヤ
- ⑬ 外交機關（第十三條）ノ意義如何
- ⑭ 本決定（第十三條）ハ之ヲ樞府ニ御諮詢相成ルヤ



(一) 問、帝國ノ「タイ」國ニ對スル文化政策如何

答、帝國ノ「タイ」國ニ對スル文化政策ハ八紘爲宇ノ肇國ノ理想ヲ顯現スルコトヲ根本基調トシ大東亞戰爭ノ完遂ニ伴フ大東亞文化共榮圈ノ確立ヲ目標トシテ居ルモノデアリマシテ特ニ現在日「タイ」同盟條約ニ基イテ行ハレテ居リマスル軍事的、政治的及經濟的協力ニ加ヘ兩國間ノ緊密ナ文化的協力ノ裏附ヲ行ヒ之ニ依リマシテ「タイ」國民ノ心裡ニ深ク浸潤シテ居リマス所ノ從來ノ歐米優越觀念及米英の世界觀ヲ拂拭排除シ皇國ヲ核心トスル共榮圈建設ノ歷史的意義ヲ闡明徹底セシメ之ノ完遂ハ東亞諸民族ノ共同責任デアルコトヲ自覺セシムルニアリマス而シテ之ガ實施方策トシテ先ヅ兩國ノ文化關係ヲ確固タル基礎ノ上ニ置ク爲此ノ際文化ノ各部門ニ於ケル兩國ノ密接ナ協力ヲ規定スル文化協定ヲ締結スルコトハ最モ機宜ヲ得タ手段デアルト考ヘルノデアリマス斯クスルコトニ依リマシテ前述ノ目的達

成ノ爲最モ緊要ナ兩國相互ノ認識及理解ハ大イニ深メラレル  
ト存ジマス殊ニ「タイ」國ノ場合コ於キマシテハ一般國民ハ我  
國文化ニ對シ甚シク認識及理解ヲ缺イテ居ルバカリデナク其ノ  
智的素質亦比較的低劣デアリマシテ同國政府内外ノ有力者及知  
識階級ハ輒近日「タイ」國理解ノ増進ノ必要性ヲ強ク認識シ始  
メツツアル様ナ實情ニ鑑ミ我方トシマシテハ其ノ施策ニ於テ劃  
一性急ニ走ルヲ戒メ「タイ」民族固有ノ文化及傳統就中宗教問  
題ニ於ケル同國ノ特殊事情ハ充分之ヲ尊重參酌シツツ差當リ文  
化工作ノ重點ヲ「タイ」國知識階級及青少年層ニ置ク方針ノ下  
ニ我國情ヲ平明達意ニ紹介シ之ト併行シテ各種ノ社會的厚生福  
祉事業ヲ積極的ニ實施スル一方文化及學術諸施設ノ設置、維持  
及發展、教授學生等ノ交換、派遣又ハ招致等學事及學術的協力  
ニ主力ヲ注グルコトト致シ度イ意嚮ヲ御座居マス

(二)問、本文化協定ハ政治的目的ヲ有スルヤ

(三)問、本協定ノ真ノ狙ヒハ何處ニアリヤ

答、本協定ハ直接的ニハ政治的目的ヲ有シテ居リマセン、乍然現下ノ情勢トニ於キマシテハ文化ハ政治ト全然無關係デアルコトハ不可能デ殊ニ大東亞戰爭トノ關聯ニ於キマシテハ日「タイ」協力が全面的ニ必要デアル見地カラ見マズレバ本協定ガ間接的ニハ政治的目的ヲ有スルノハ勿論デアリマシテ此ノ意味ニ於キマシテハ本協定締結ノ真ノ狙ヒモ亦此所ニアルト言フコトガ出來ルト思フノデアリマス而シテ右ノ政治的狙ヒハ之ヲ左ノ二ニ要約スルコトガ出來ルト考ヘマス

即チ積極的ニハ本協定ノ締結ニ依リマシテ單ニ皇國文化ヲ「タイ」國ニ紹介シ扶植スルニ止ラズ他迄大東亞戰爭勃發ト共ニ締結セラレマシタ同盟ヲ完成スル意圖ノ下ニ「タイ」國ノ民心ニ深ク根ヲ降シテ居リマス從來ノ英米的觀念ヲ排除シ皇國ヲ中核

トスル大東亞共榮圈樹立ノ指導精神タルベキ東洋的、日本の精神ヲ理解シ徹底セシムルコトニアリマス次ニ消極的ニハ日「タイ」同盟條約成立以來帝國國戰爭遂行ノ緊急且切實ナル必要カ「タイ」軍事的不モ政治的不モ將又經濟的不モ必勝ノ體勢ヲ確保スルガ爲「タイ」國ニ對シ相當ノ犧牲ヲ要求シテ參リマシタ處右ハ共同ノ強敵ニ對處スル爲ノ不可缺ノ措置デアリマシタコトハ勿論デアリマスガ之ガタメ「タイ」國民カ漸次重苦シイ對日被壓迫感ヲ覺ヘル様ニナツテ參リマシタノデ本協定ノ締結ニ依リマシテ此ノ際右ノ被壓迫感ヲ輕減シ且ツ「タイ」國人ノ自尊心及國民主義的矜持ニ好影響ヲ及ボス爲ノ政治的緩和劑タルノ好果ヲ狙ツタモノデアリマス

四問、日獨、日伊等ノ文化協定ニ比シ規定ノ詳細ナル理由如何

答、日獨及日伊間ノ文化關係ハ既ニ相當古クヨリ存シテ居リ夙ニ  
各部門ニ於テ事實上緊密ニ協力シテ少ナカラス實效ヲ擧ゲテ居  
リマス他之等協定締結當時ノ國際情勢カラ或程度政治的效果ヲ  
期待シマシタノミナラス先方ノ我方ニ對スル宣傳及文化攻勢ヲ  
適當ニ阻止スルノ必要アルコト等ノ考慮カラ能フ限リ條文ヲ簡  
略ニシタモノデアリマス、之ニ引換ヘ日「タイ」間ノ文化關係  
ハ近年ニ至ル迄比較的稀薄デアリマシテ相互ノ認識ハ未ダ極メ  
テ不十分ナ爲兩國民間ノ誤解ト相手國文化ニ對スル無理解カ  
ラ種々不幸ナ結果ヲ生ジタルコトガアル様ナ實情デアリマスカ  
ラ今後ノ日「タイ」兩國ノ立場ニ鑑ミマスレバ眞ニ彼此ノ認識  
及理解ヲ増進セシムルト共ニ我方理想ノ顯現、國民精神ノ發揚  
及強大ナル國力ノ示顯ヲ圖ルコトガ益々緊要トナツテ參リマシ  
タ次第デ此ノ爲ニハ文化ノ有ラユル部門ニ於テ相互ノ接近ヲ圖

ル爲最モ圓滑緊密ナル協力ヲ圖ルコトガ絶對ニ必要デアリ  
算其ノ他ノ關係ヲモ考慮致シマシテ最モ適當ト認メラレタ  
内容  
及形式ヲ採用致シマシタ

外  
務  
省

(日本標準規格B5)

(五)問、本協定ハ「タイ」ニ對スル日本ノ活動ヲ主トスルモノナルニ  
答、双務的規定トシタル理由如何ニ増進シヤウトスルモノデアラス  
答、國家主義思想殊ニ強烈デアリ獨立國タルノ矜持ノ極メテ高イ  
「タイ」國ノ實情及日本側ガ「タイ」國文化ヲ眞面目ニ研究ス  
ル必要等ヲ考慮シマシテ相互主義ト平等ノ立場ニ立ツテ協カス  
ル體裁ヲ採ルコトガ文化工作ノ效果ヲ擧グル上ニ最モ效果的ダ  
ト認メタカラデアリマス定シタコト及之ニ加ヘテ東亞民族文化  
ノ相融融合ニ依ル東亞文化ノ興隆ニトツテ無視スルコトノ出來  
ナイ要素トシテ宗教ヲ本協定ニ關フ文化ノ中ニ含マシメマシタ  
ノハ日獨、日伊間協定ニ比シ特記セラルル本質上ノ差異ト謂フ  
コトガ出來マセウ

(六)問、日獨、日伊等ノ文化協定ニ比シ本質上ノ差異アリヤ

答、本協定ガ文化ノ交流ヲ相互ニ増進シヤウトスルモノデア  
ル點ニ於テハ日獨、日伊等ノ文化協定ト差異ハアリマセンガ前文  
デ明カナ様ニ東亞文化ノ興隆ニ寄與シヤウトスル日「タイ」兩國  
ノ決意ニモ徴シマシテ相互ノ文化的接近ニ對スル熱意及配慮ノ  
程ハ日獨、日伊間ノ協定デハ規定セラレズニ細目協定ニ讓ラレ  
タモノヲ本協定ニ於テ規定シタコト及之ニ加ヘテ東亞民族文化  
ノ相通融合ニ依ル東亞文化ノ興隆ニトツテ無視スルコトノ出來  
ナイ要素トシテ宗教ヲ本協定ニ謂フ文化ノ中ニ含マシメマシタ  
ノハ日獨、日伊間協定ニ比シ特記セララル本質上ノ差異ト謂フ  
コトガ出來マセウ



(七) 問、本協定ノ實施ニ付大東亞省及其ノ他ノ各省トノ關係如何

答、大東亞省官制第一條ニ依リマスレバ大東亞大臣ハ大東亞地域ニ係ル對外文化事業ニ關スル事務ヲ管理スルコトトナツテ居リマスカラ本協定ノ實施ハ主トシテ大東亞省(南方事務局)ニ於テ行ハルルコトト考ヘテ居リマス、但シ帝國ハ大東亞地域内諸外國トノ間ノ國際條約(條約、協定、議定書等ノ名稱ヲ有スルモノヲ含ム)ノ締結及之ニ關スル公式交渉ハ外務大臣ノ責任ノ範圍ニ屬スルコトトナツテオリマスカラ本協定ノ修正、廢棄及之ニ關スル公式交渉竝ニ本協定ノ實施ニ關スル細目デ國際的約東ノ形式ヲ取ル必要ノアルモノガアリマスレバ其ノ締結及之ニ關スル公式交渉ハ外務大臣ノ所管ニ屬スル次第デアリマス、尙本協定ノ實施ニ對シ陸軍省、海軍省、文部省、情報局、厚生省、鐵道省等ノ協力ヲ仰グベキコトトナツテ居リマス

(八) 問、本文化協定ニ對スル「タイ」國側ノ意圖如何

答、豫テ以前カフ「タイ」國側ノ意圖ヲ確メテ參リマシタ處本年三月坪上大使カフ「タイ」國ニ於キマシテモ軍事、經濟協定ニ並行シテ又文化協定妥協ノ意圖ヲ有シテ居ルコトガ明確トナツタ旨ノ報告ガアリマシタ又在京「タイ」國大使館當局ニ於キマシテモ我方ノ提案ニ對シマシテ正式ニ何等特別ノ異議ガ無い旨ヲ表明シマシタ之ニ欣然贊同致シマシタ次第テ爾來交渉ハ順調ニ進捗シ急速ニ妥結調印サレタ實情デアリマス

四問、本協定ハ「タイ」國ヨリ文化侵略ノ誘ヲ受クルコトナキヤ

答、「タイ」國側ハ最近軍事、政治、經濟方面ニ於テハ稍モスレ  
ハ日本ノ壓力ヲ強ク感ジテ居ル様ニ見受ケラレルノデアリマス  
カ文化問題ニ關スル限リ欣然協力シヤウトイフ誠意ト多大ノ興  
味ヲ示シテ居リマス様ナ實情デアリマシテ本協定ニ依リマシテ  
兩國カ對等ナ平等相互主義ニ立脚シテ居リマスコトハ注シテ同  
國民ノ文化的衿持ヲ傷ケルヤウナコトナク其ノ實施ニ當リマシ  
テ先方ノ事情ヲ充分存ミ込ミ適當ニ施策シマスルナラバ其ノ誘  
ヲ免ジ得ルモノト考ヘテ居リマス勿論惡意アル敵國側ノ宣傳等  
ハ問題外デアリマス

(中) 問、政府ハ將來東亞ニ於ケル此ノ國ト文化協定ヲ締結スル意思アリヤ

答、現下ノ狀勢ニ於キマシテハ直チニ此ノ諸國ト文化協定ヲ締結スルコトハ考慮シテ活リマセンカ支那、滿洲國ヲ始メ佛印、比律賓、緬甸、暹羅等大々其ノ情勢カ之ヲ許ス様ニナリマスレバ之等ノ國トモ文化協定ヲ締結シテ支ヘナイト考ヘテ活リマスソノ曉ニハ渾然トシテ大東亞文化ノ興隆ヲ圖ル爲ノ諸民族ノ綜合的協力ヲ規定スル大東亞共榮圈諸國間ノ多邊的條約ノ締結モ考慮シ待フレルト存ジマス

内問、本文化協定ハ示教ヲモ含ムモノナリヤ

答、含ンテ居リマス、由來信仰ノ問題ハ各個人ノ純然タル自由意思ニ任スコトカ適當デアリマシテ之ヲ國家ノ統制ニ服セシムルコトニ依ツテ屢々葛藤ヲ生シタルコトハ歷史上明ラカデアリマスカラ具ノ國際的取扱ハ極メテ慎重デナケレバナラナイノデアリマシテ我方ノ「タイ」國ニ對スル宗教的施策ハ充分檢討ヲ重ズル必要カアルト認メテ居リマス、然シ苟モ日「タイ」兩國間ニ文化ノ有ラユル部門ヲ進シ全面的ニ協力ノ實ヲ擧クベキコトヲ約定スルニ際シマシテ彼我兩國ノ重要ナル文化的背景ヲ爲シテ居リマスル宗教（佛教）ヲ無視スルコトハ片手落カト存ジマス、唯其ノ實施ニ當リマシテハ「タイ」國ノ佛教ハ所謂南傳小乘的デアリマスガ我國ノソレハ大乘的デアル點ニ重要ナ差異ノアルコトニ留意シ我方カラ無定見無準備テ無暗ニ傳導ヲ行フ様ナコトハ害多クシテ利無キ次第デアリマスカラ此ノ際直チニ多

數ノ布教師ヲ派遣スル様ナコトハ之ヲ避ケ彼我ノ宗教ヲ相互ニ  
尊重シツツ差當リ相互ノ宗教ニ付テ研究ヲ行フ爲宗教家、學者、  
研究家等ノ活動ヲ助長シ漸次宗教ヲ通スル文化工作ノ效果ヲ擧  
ゲ様ト考ヘテ居リマス

外  
務  
省

(日本標準規格B5)

由問 本協定ヲ御諮詢前調印シタル理由如何

答 日「タイ」兩國間ノ理解及認識増進ヲ特ニ重視シテ居リマス  
ル政府ト致シマシテハ本協定ノ内容ニ特別ノ考慮ヲ拂ヒ日獨  
日伊間ノ文化協定等ト全然趣ヲ異ニシテ規定ヲ設ケマシタノト  
協定ノ性質上調印ト同時ニ效力ヲ生ゼシムル必要ハナク今後大  
東亞地域ノ諸國トノ間ニ締結セラルベキ文化協定ノ標準型トモ  
爲シ度キ點ヲモ考慮致シマシテ批准條項附ノモノト爲シマシタ

(五)

問、「タイ」國ニ於ケル最近ノ對日感情如何

答、客年十二月八日大東亞戰爭ガ勃發致シマスルヤ「タイ」國ハ我國ニ對シ向背ヲ明ニセザルヲ得ナイ頗ル重大且困難ナ立場ニ置カレタ次第デアリマスカ「ビブン」首相ハ決然帝國ニ與シマシテ同盟條約ヲ締結スルノ英斷ニ出テ直ニ戒嚴令ヲ布キ内閣ヲ改造シ且輿論ノ指導ニ努メタ結果皇軍ノ赫赫タル戰果ト相俟キマシテ一時動搖シマシタ「タイ」國ノ民心ハ漸次我國ヘノ信頼及畏敬ヲ加ヘタノデアリマス其ノ後「タイ」國政府ハ漸次國內戰時体制ヲ強化致シマシテ本年一月二十五日米英ニ宣戰シ大東亞戰爭遂行ニ必要ナ軍事上及經濟上各般ニ百ハ協力ヲ爲シマシタガ戰爭ガ進展スルニ伴ヒマシテ「タイ」國民心ニ初期ノ興奮状態カラ漸次鎮靜シ前途ノ困難ヲ認識シ始メマシタ、之ト共ニ一方國內ノ歐米派分子及「ビブン」政變反對分子ノ對日協力反對ノ策謀等ノ結果ニ依リマシテ對日感情ニ一種重苦シイ雰囲気

外務省



氣力醸成ナラレ玆地兩國官憲間ノ交渉ニ於キマシテモ時ニ不愉快ナ緊張ヲ呈スル様ナコトモアリマシタ、依ツテ日「タイ」双方ニ於テ斯ノ様ナ蟻リノ原因ヲ除去スルコトニ努力シ卒々「パボン」切下ノ際ノ我方ノ借款提議、「パボン」使節ニ對スル本邦朝野ノ熱心ヲ歡迎、右答禮使節トシテ派遣セラレマシタ廣田使節一行ノ「タイ」國訪問等ニ依リマシテ「タイ」トシマシテモ帝國ノ善意ヲ理解スル様ニナリ「タイ」人ノ對日感情ハ再ビ明朗化致シテ居リマス殊ニ最近ノ「タイ」國大水害ニ對シ帝國政府カ機ヲ逸セス救恤ノ措置ヲ講ジテ居リマスコトハ更ニ「タイ」國官民ニ好影響ヲ與ヘマシタ

問・兩國文化ノ本然ノ特質ノ意義如何

答・日本文化ノ本然ノ特質トハ萬世一系ノ皇室ヲ中心トスル日本  
國民ガ發展セシメテ参リマシタ日本精神ヲ基調トスル文化ヲ謂  
ヒ、「タイ」國文化ノ本然ノ特質トハ永イ傳統ニ基ク「タイ」  
民族ニ固有ノ文化ヲ謂フノデアリマス

(十五) 問、東亞文化ノ興隆ニ寄與スルノ意義如何

答、茲ニ東亞文化トハ大東亞地域ノ各民族ニ固有ナ文化ヲ謂フモノデアリマス、之等ノ文化ノ中ニハ曾テ輝ヤカシイ發展ヲ遂ゲタモノガ少ナクアリマセンガ爾來停滞衰滅シタモノガ多イノニ加ヘテ近世以來此ノ地域ニ對スル歐米ノ政治勢力カ進出スルニ伴ヒマシテハ植民地域ハ保護國トシテ民族文化ノ進歩ヲ阻マレ偶々政治的獨立ヲ保持スルコトノ出來タ國家ニ於キマシテモ深大ナ歐米文化ノ影響ヲ受ケマシテ各民族固有ノ文化、精神、思想ヲ忘却シ東洋民族タルノ自覺ヲ失ハウトシテ居タ様ナ實情デアリマヌタ、斯ノ様ナ狀態ヲ更新致シマシテ大東亞ノ諸民族ヲシテ具ノ固有ノ文化ノ光輝ヲ今日改メテ回想セシメツ具ノ美點長所ヲ大イニ作興スルニ努メ以テ東洋民族トシテノ矜持ヲ向上セシムルト共ニ今後ハ日本ノ指導ノ下ニ大東亞ノ諸民族相協力シテ相互ニ其ノ文化的向上ヲ期セントスモノデアリマス

斯ル見地カラ先ヅ日「タイ」兩國ガ右ノ事業ニ相互ニ緊密ナ協  
カラ行ハウトスルモノデ御座イマス

外  
務  
省

(日本標準規格B5)

(因) 同・文化ノ有ラユル部門(第一條)ノ意義如何

答・單ニ學術藝術等ノ部門ニ止マラス宗教、運動競技、青少年運動、厚生事業具ノ他廣ク各般ノ國民文化生活ノ分野ニ涉ルノ意味アリマシテ本又文化協定ニ於キマシテハ其ノ主ナルモノヲ各條ニ例示的ニ列挙致シマシタ

外  
務  
省

(由) 問、文化會議(第二回)ノ目的、構成及審議題目如何

答、學術、藝術、宗教關係者ノ會議ヲ始メ青少年、学徒ノ會同、  
厚生大會等ヲ通シ各文化部門ニ於ケル協力ヲ増進シ以テ兩國文  
化ノ向上發展ヲ圖ルト共ニ期ノ様ナ會合ヲ機會ニ國情ノ紹介及  
兩國民間ノ交離増進ニ資スル儀ニシヤウトスルノガ具ノ目的デ  
アリマス

本文化會議ハ政府ノ任命ニ依ル代表者間ノ會議デアルコトガア  
リ又民間關係者ヲ以テ組織セラルルコトモアル次第デス尙其ノ  
審議題目ハ純然タル文化關係ノ事項ニ限ラレ隨時兩國關係者間  
デ協議決定セラルルコトト考ヘテ居リマス

内問、文化紹介機關（第十一條）ノ意義如何

答、自國ノ文化ヲ廣ク相手國ニ紹介シ且紹介ノ斡旋、便宜供與等ヲ行フ民間ノ中央機關ノ意味デアリマス。文化事業ノ性質上其ノ全部ヲ政府ノ手ニテ行フコトハ不可能デアリ又事ノ性質上不適當ナコトガアリマスカラ專ラ其掌ニ當ルベキ使命ヲ有スル機關ヲ設置シ政府ノ指導監督ノ下ニ相手國ニ對スル各種ノ文化事業ヲ實施セシメ様トスルモノデアリマス其ノ設置、維持及事業ノ執行ハ專ラ其ノ屬スル國ノ負擔及指導ニ依リテ爲サルベキモノト考ヘテ居リマス

廢

(問) 外交機關（第十二條第二項）ノ意義如何

答、大東亞大臣及外務大臣ノ責任ノ範圍ニ屬スル事務ヲ官掌スル機關ノ謂デアリマス大東亞大臣ハ大東亞省官制ニ依レバ大東亞地域ニ關スル對外文化事業ニ關スル事務ヲ管理スルコトトナツテ居リ一方帝國ト大東亞地域内諸外國トノ間ノ國際條約ノ締結及之ニ關スル公式公涉ハ外務大臣ノ責任ノ範圍ニ屬スルモノトナツテ居リマス



(三) 尚、本決定ハ第十二條第二項ハ之ヲ權付ニ御諮詢相成ルヤ  
谷、又化進和協議會ノ組織運用ニ關スル細目ノ條ナモノハ其ノ性  
質上行ニ專入ナセト認メフレマセヌカフ外交機關ガ協議決定  
スルコトト致シ度ク考ヘテ居リマス

外  
務  
省

廢

(三) 問、從來ノ例ニ依レバ本條ハ權限アル官憲カ決定スルコトトナリ  
居ル處今同ハ外交機關カ決定スルコトニナリ居レリハ第十三條  
具ノ理由如何

答、本協定ニ言マレル文化事業ノ範圍ハ頗ル廣汎ニ涉ツテ居リマ  
スル處具ノ實施ニ當リマシテハ其ノ全体ニ付テ統一的ニ工作シ  
兩國ノ情勢ニ應ジテ適宜調整ヲ加フルコトカ絶對ニ必要デアリ  
マシテ具ノ爲ニハ所謂權限アル官憲カ各自勝手ニ細目取權ヲ締  
結スル様ナコトヲシテ我方ノ施策ニ矛盾混亂ヲ來シメル様ナコ  
トノ無イ様指直スル必要カアリマス依ツテ外交機關ニ於テ充分  
關係方面ト連絡ヲ遂ゲ一元的ニ「タイ」側ニ當ラウトイフ考慮  
カラ斯ク明記シタノデアリマス

外務省

廢

(三) 問、外務大臣以外ノモノカ實施スベキ事項ニ付テモ外交機關ガ協

議決定シ得ルヤ

答、本協定ノ實施ハ主トシテ大東亞大臣ノ行フトコロデアルト考  
ヘルノデアリマスガ、本協定ノ修正、廢棄及之ニ關スル公式交  
涉以ニ本協定ノ實施ニ關スル細目テ國際的約束ノ形式ヲ採ル必  
要ノアルモノガアリマスレバソノ締結（修正、廢棄ヲ含ム）及  
之ニ關スル公式交渉ハ外務大臣ノ責任ノ範圍ニ屬スル次第デス

外  
務  
省

廢

問・外交機關（第十三條）ノ意義如何

答・大東亞大臣及外務大臣ノ責任ノ範圍ニ屬スル事務ヲ管掌スル  
機關ノ謂デアリマス。大東亞大臣ハ大東亞省官制ニ依レバ大東  
亞地域ニ關スル對外交化事業ニ關スル事務ヲ管理スルコトナ  
ツテ居リ又帝國ト大東亞地域内諸外國トノ間ノ國際條約ノ締結  
及之ニ關スル公式交渉ハ外務大臣ノ責任ノ範圍ニ屬スルモノト  
ナツテ居リマス

圖問・本決定（第十三條）ハ之ヲ樞府ニ御諮詢相成ルヤ  
各、本協定ノ實施ニ關スル細目ハ其ノ性質上特ニ重大ナルモノト  
認メラレマセンノデ外交機關ノミデ協議決定スルコトト致シ度  
キ考デアリマス。

一日本國「夕」國間文化協定御批准ノ件  
右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此段  
及通牒候也

昭和十七年十二月二日

樞密院議長原 嘉道

內閣總理大臣東條英機殿

臣等 日本國「タイ」國間文化協定御批准ノ件  
諮詢ノ命ヲ恪シ本月二日ヲ以テ審議ヲ  
盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏シ更ニ  
聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十七年十二月二日

樞密院議長臣原 嘉道

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル  
大日本帝國天皇(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示  
ス

朕昭和十七年十月二十八日東京ニ於テ帝國全  
權委員ガ「タイ」國全權委員ト共ニ署名調印シタ  
ル日本國「タイ」國間文化協定ヲ閱覽點檢シ之ヲ  
嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百二年昭和十七年  
月 日  
ニ於テ親ヲ名ヲ署シ



璽ヲ鈴セシム

御名 國璽

外務大臣

極秘

日本國「夕ノ」國間文化協定

日本國「夕ノ」國間文化協定

日本國「夕ノ」國間文化協定

## 日本國「タイ」國間文化協定

大日本帝國天皇陛下及

「タイ」國皇帝陛下ハ

兩國文化ノ本然ノ特質ヲ相互ニ尊重シツツ緊密ナル協力ノ下ニ兩國間ノ文化關係ヲ更ニ増進セシメ以テ東亞文化ノ興隆ニ寄與スルニ努メ併セテ幸ニ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ一層強固ナラシメンコトヲ欲シ

之ガ爲文化協定ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委員ヲ任命セリ

大日本帝國天皇陛下

外務大臣谷正之

「タイ」國皇帝陛下

日本國駐劄「タイ」國特命全權大使「ナイ、ディレック、チャイヤナム」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ基礎ヲ堅實ナラシメ以テ兩國相互ノ認識及理解ヲ深カラシムル様努力スベク且之ガ爲文化ノ有ラユル部門ニ互リ最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第二條

締約國ハ兩國ノ文化ノ向上發展ニ付審議スル爲ノ文化會議ヲ隨時ニ開催シ及右目的ヲ有スル會議ヲ助成スルニ努ムベシ

第三條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ資スベキ施設ノ設置、維持及發展ニ努メ且之ガ爲相互ニ能フ限り便宜ヲ供與スベシ  
前項ノ施設ハ學術其ノ他ノ文化ニ關スル團體、研究所、圖書館、博物館、學校及衛生福祉施設ヲ含ムモノトス

第四條

締約國ノ一方ハ自國ノ大學ニ於ケル他方ノ文化ニ關スル講座ノ設置、維持及充實ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ  
締約國ノ一方ハ自國ノ適當ナル各種ノ學校ニ於ケル他方ノ國語ノ教授ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

締約國ハ兩國ノ文化ニ關スル講義又ハ講演ヲ爲サシムル爲教授、學者及專門家ノ定期交換、派遣又ハ招聘ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

締約國ハ前三項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

#### 第五條

締約國ハ兩國ノ協議決定スル所ニ從ヒ兩國ノ文化ヲ研究セシムル目的ヲ以テ研究員、學生及生徒ノ定期交換、派遣又ハ招致ヲ行フベシ

締約國ハ實務見習生及短期講習生ヲ交換、派遣又ハ招致スルニ努ムベシ

締約國ハ前二項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與シ且獎學資金ノ設定ニ考慮ヲ拂フベシ

締約國ノ一方ハ自國ノ文化研究ノ爲來レル他方ノ學者及專門家ニ對シ同様ノ便宜ヲ供與スベシ

#### 第六條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與スベシト認ムル著述家、藝術家及宗教家ノ活動ヲ獎勵シ且此等ノ者ヲ交換、派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與スベシト認ムル演劇、舞踊及音樂ノ上演ヲ獎勵シ且之ニ從事スル個人及團體ヲ交換、派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ

#### 第七條

締約國ノ一方ハ自國ニ於ケル出版物、映畫、幻燈、寫真、音盤及樂譜ニシテ兩國相互ノ認識及理解ノ増進ニ寄與スベシト認ムルモノヲ能フ限リ多數且頻繁ニ他方ニ供給スルニ努ムベク他方ハ此等ノモノ

ガ自國ニ於テ有效ニ利用セラルル様其ノ保存、頒布、上映及展示ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

締約國ハ自國ニ於ケル出版物及藝術作品ニシテ相手國ニ紹介スル價值アリト認ムルモノノ表ヲ交換スベク且適當ナル方法ニ依リ此等ノモノヲ紹介及普及スルニ努ムベシ

締約國ハ前記出版物及藝術作品ノ翻譯及複製ニ關シ必要ナル斡旋及助成ヲ爲スニ努ムベシ

締約國ノ一方ハ自國ノ圖書館及博物館ニ他方ニ關スル圖書及展覽資料ヲ増加スルニ努ムベク且此等施

設ノ利用ニ關シ他方國民ニ對シ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

#### 第八條

締約國ハ兩國ノ學術、美術及工藝ニ關スル相互ノ認識及理解ヲ増進スル目的ヲ以テ隨時ニ展覽會ヲ開

催シ及右目的ヲ有スル展覽會ノ開催ニ關シ必要ナル斡旋及助成ヲ爲スニ努ムベシ

#### 第九條

締約國ノ一方ハ自國ノ放送局ヲシテ他方ニ向ケ定期放送ヲ行ハシメ且他方ノ定期放送ヲ中繼セシムベ

シ

締約國ノ一方ハ自國ノ放送局ヲシテ隨時ニ講演、演藝、音樂等他方ノ文化ニ關スル放送ヲ行ハシムベシ

第十條

締約國ハ兩國民交驩ノ爲青少年團及運動競技選手ヲ交換、派遣又ハ招致スルニ努ムベシ  
締約國ハ兩國相互ノ認識及理解ヲ増進スル爲觀光旅行團及見學旅行團ヲ交換、派遣又ハ招致スルニ努ムベシ

締約國ハ前二項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第十一條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與セシムル爲夫々相手國ノ首府ニ文化紹介機關ヲ設置スルニ努ムベク且右機關ノ事業ニ對シ相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第十二條

締約國ハ本協定ノ實施ニ關シ兩國間ノ連絡ニ當ラシムル爲東京及「バンコック」ニ文化連絡協議會ヲ設置スベシ

右協議會ノ組織及運用ニ關スル細目ハ締約國ノ外交機關之ヲ協議決定スベシ

第十三條

本協定ノ實施ニ關スル細目ハ締約國ノ外交機關之ヲ協議決定スベシ

第十四條

本協定ハ批准セラレベク且其ノ批准書ハ成ルベク速ニ「バンコック」ニ於テ交換セラレベシ

本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ之ヲ實施シ且同日ヨリ十年間引續キ效力ヲ有スベク又締約國ノ一方ガ本協定ヲ終了セシムルノ意思ヲ右十年ノ期間滿了ノ一年前ニ他方ニ通告セザル場合ニハ本協定ハ締約國ノ一方ガ其ノ廢棄ノ通告ヲ爲シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ

昭和十七年十月二十八日即チ佛曆二千四百八十五年十月二十八日東京ニ於テ日本文及「タイ」文ヲ以テ  
本書二通ヲ作成ス

谷 正 之 (印)

ディレック、チャイヤナム (印)



ประเทศทั้งสอง เกี่ยวกับการปฏิบัติความรับผิดชอบแห่งความตกลงนี้  
เจ้าหน้าที่การทูตแห่งอัครราชทูตสหประชาชาติ จะได้กำหนดรายละเอียด  
เกี่ยวกับการจัดองค์การและการดำเนินงานของคณะกรรมการ  
นั้น ด้วยความตกลงพร้อมกัน

ข้อ 13

เจ้าหน้าที่การทูตแห่งอัครราชทูตสหประชาชาติ จะได้กำหนดรายละเอียด  
เกี่ยวกับการปฏิบัติความรับผิดชอบแห่งความตกลงนี้ ด้วย  
ความตกลงพร้อมกัน

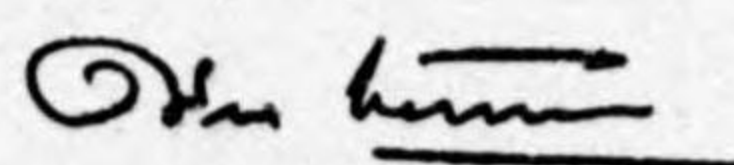
ข้อ 14

ความตกลงนี้จะได้รับสัตยาบัน และสัตยาบันทั้งสองฝ่ายจะ  
ได้แลกเปลี่ยนกัน ณ กรุงเพท ๗ โดยเร็วที่สุดที่จะเป็นไปได้

ความตกลงนี้จะเริ่มใช้ในวันแลกเปลี่ยนสัตยาบัน และให้คง  
ใช้อยู่เป็นเวลาสิบปีนับแต่วันที่แลกเปลี่ยนนั้น ในกรณีที่อัครราชทูต  
สหประชาชาติฝ่ายหนึ่งฝ่ายใดมิได้ออกกล่าวแก่อีกฝ่ายหนึ่ง หนึ่งปีก่อนสิ้น  
กำหนดสิบปีดังกล่าวแล้ว ถึงเจตนาของตนที่จะเลิกความตกลงนี้ ก็  
ให้คงใช้ต่อไป จนกว่าจะสิ้นกำหนดหนึ่งปี นับแต่วันที่อัครราชทูต  
สหประชาชาติฝ่ายหนึ่งฝ่ายใดจะได้ออกกล่าวเช่นนั้น

เพื่อเป็นพยานแก่การนี้ ผู้มีอำนาจเต็มแต่ละฝ่ายได้ลงชื่อ  
และประทับตราความตกลงนี้ไว้เป็นสำคัญ

ทำคู่กัน เป็นสองฉบับ เป็นภาษาไทยและภาษาญี่ปุ่น ณ  
โตเกียว เมื่อวันที่ ยี่สิบแปด เดือน ตุลาคม พุทธศักราช สองพัน  
สี่ร้อยแปดสิบห้า ตรงกับวันที่ ยี่สิบแปด เดือน สิบ ปีสโรวาที่สิบเจ็ด

 (L.S.)

๙ ๕ ๗ (L.S.)

ข้อ 9

อัครราชทูตทำสัญญาแต่ละฝ่าย จะได้ให้องค์การวิทยุกระจายเสียงแห่งประเทศของตน กระจายเสียงเป็นครั้งคราวไปยังอีกฝ่ายหนึ่ง และจะได้ให้องค์การเหล่านั้น ถ่ายทอดการกระจายเสียงเป็นครั้งคราวจากอีกฝ่ายหนึ่ง

อัครราชทูตทำสัญญาแต่ละฝ่าย จะได้ให้องค์การวิทยุกระจายเสียงแห่งประเทศของตนกระจายเสียงข่าวสด บทละคอน ดนตรี ฯลฯ เกี่ยวกับวันขึ้นปีใหม่ของอีกฝ่ายหนึ่งเป็นครั้งคราว

ข้อ 10

อัครราชทูตทำสัญญาจะได้ทำความพยายาม ในอันจะแลกเปลี่ยนส่ง หรือเขียนคณะผู้แทน และนักกรีฑาและชุดนักกีฬา เพื่อให้การติดต่อกันอันมีมิตรระหว่างคนชาติแห่งประเทศทั้งสองมั่นคงแข็งแรง

อัครราชทูตทำสัญญาจะได้ทำความพยายาม ในอันจะแลกเปลี่ยนส่ง หรือเขียนคณะนักท่องเที่ยว และคณะเดินทางเพื่อการศึกษากัน ทั้งนี้ เพื่อให้ความรู้และความเข้าใจซึ่งกันและกันแห่งประเทศทั้งสองซาบซึ้งยิ่งขึ้น

อัครราชทูตทำสัญญา ต่างฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกทุกทางที่สามารถจะทำได้ เพื่อการปฏิบัติตามพันธมติแห่งวิสัยสองวิสัยข้างต้นนี้

ข้อ 11

อัครราชทูตทำสัญญาจะได้ทำความพยายาม ในอันจะจัดตั้งสถานวิชนิมิตต์ขึ้นในนครหลวงของกันและกัน เพื่อเกื้อกูลความสัมพันธ์ทางวิชนิมิตต์ระหว่างประเทศทั้งสองให้มั่นคงแข็งแรง และต่างฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกทุกทางที่สามารถจะทำได้ ให้แก่กิจการแห่งสถานวิชนิมิตต์ที่กล่าวแล้ว

ข้อ 12

อัครราชทูตทำสัญญาจะได้จัดตั้งคณะที่มาร่วมมือทางวิชนิมิตต์ขึ้น ณ กรุงเต๋น ๑ และ โตเกียว แล้วแต่กรณี เพื่อทำการติดต่อกันระหว่าง

ข้อ 9

อัครราชทูตทำสัญญาแต่ละฝ่าย จะได้ให้องค์การวิทยุกระจายเสียงแห่งประเทศของตน กระจายเสียงเป็นครั้งคราวไปยังอีกฝ่ายหนึ่ง และจะได้ให้องค์การเหล่านั้น ถ่ายทอดการกระจายเสียงเป็นครั้งคราวจากอีกฝ่ายหนึ่ง

อัครราชทูตทำสัญญาแต่ละฝ่าย จะได้ให้องค์การวิทยุกระจายเสียงแห่งประเทศของตนกระจายเสียงปรากฏตา บนทะเลคอน คณกรี ฯลฯ เกี่ยวกับวันวันขึ้นของอีกฝ่ายหนึ่งเป็นครั้งคราว

ข้อ 10

อัครราชทูตทำสัญญาจะทำความพยายาม ในอันจะแลกเปลี่ยนส่ง หรือเขียนคณะผู้แทน และนักกรีทาและซุคนักกีฬา เพื่อให้การติดต่อกันอันมีอิทธิพลระหว่างคนชาติแห่งประเทศทั้งสองมั่นคงแข็งแรง

อัครราชทูตทำสัญญาจะทำความพยายาม ในอันจะแลกเปลี่ยนส่ง หรือเขียนคณะนักท่องเที่ยว และคณะเดินทางเพื่อการศึกษากัน ทั้งนี้ เพื่อให้ความรู้และความเข้าใจซึ่งกันและกันแห่งประเทศทั้งสองซาบซึ้งยิ่งขึ้น

อัครราชทูตทำสัญญา ต่างฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกทุกทางที่สามารถจะทำได้ เพื่อการปฏิบัติตามพันธมติแห่งทั้งสองข้างกันนี้

ข้อ 11

อัครราชทูตทำสัญญาจะทำความพยายาม ในอันจะจัดตั้งสถานวันขึ้นขึ้น ในนครหลวงของกันและกัน เพื่อเกิดความรู้สึกสัมพันธ์ทางวันขึ้นระหว่างประเทศทั้งสองให้มั่นคงแข็งแรง และต่างฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกทุกทางที่สามารถจะทำได้ ให้แก่กิจการแห่งสถานวันขึ้นที่กล่าวแล้ว

ข้อ 12

อัครราชทูตทำสัญญาจะจัดตั้งคณะกัมการร่วมมือทางวันขึ้นขึ้นในกรุงเทพฯ และโตเกียว แล้วแต่กรณี เพื่อทำการติดต่อกันระหว่าง

ข้อ 7

อัครราชทูตทำสัญญาแต่ละฝ่ายจะได้ทำความพยายามในอันจะจัด  
สิ่งซึ่งจะถูกรวบรวมไป ให้แก่อีกฝ่ายหนึ่ง เป็นจำนวนมากและ  
บ่อยครั้งที่สุดเท่าที่สามาถจะทำได้ คือ สารโคสนา ภาพยนตร์  
กระจกฉายภาพรูปถ่าย แผ่นเสียง และบทดนตรี แห่งประเทศของตน  
ซึ่งจะได้พิจารณาเห็นว่า เป็นการเกื้อกูลให้ความรู้และความเข้าใจ  
ซึ่งกันและกันระหว่างประเทศทั้งสองซึ่งยังขึ้น และอีกฝ่ายหนึ่งจะ  
ได้ให้ข้อคำนึงเป็นพิเศษแก่การเก็บรักษา แจกจ่าย นำออกแสดง  
และแสดงพิพิธภัณฑ์ เพื่อสิ่งเหล่านั้นจะได้ใช้ประโยชน์ให้ประสิทธิผล  
ในประเทศของตน

อัครราชทูตทำสัญญาจะได้แลกเปลี่ยนนิทรรศการ โคสนา และ  
ศิลปกรรมของประเทศแต่ละฝ่าย ซึ่งพิจารณาเห็นว่ามีความสมควรที่จะนำ  
เข้ามาในประเทศของอีกฝ่ายหนึ่ง และจะได้ทำความพยายามในอัน  
จะนำเข้ามา และเผยแพร่สิ่งเหล่านั้นโดยทางที่เหมาะสม

อัครราชทูตทำสัญญาจะได้ทำความพยายาม ในอันจะเสนอความ  
เอื้อเฟื้อ และอำนวยความสะดวกเหลือที่จำเป็น ในการแปลและถอดแบบ  
สารโคสนาและศิลปกรรมที่กล่าวข้างต้น

อัครราชทูตทำสัญญาแต่ละฝ่ายจะได้ทำความพยายาม ในอันจะ  
เพิ่มพูนการรวบรวมสมุดและพิพิธภัณฑ์เกี่ยวกับอีกฝ่ายหนึ่ง ไว้ในหอสมุด  
และพิพิธภัณฑ์สถานในประเทศของตน และจะได้อำนวยความสะดวก  
ทุกทางที่สามารถจะทำได้ แก่คนชาติของอีกฝ่ายหนึ่ง เกี่ยวกับการ  
ใช้ประโยชน์จากสถานการเหล่านั้น

ข้อ 8

อัครราชทูตทำสัญญา จะได้จัดให้มีการแสดงพิพิธภัณฑ์เป็นครั้ง  
คราว เพื่อให้ความรู้และความเข้าใจซึ่งกันและกันซึ่งยังขึ้นในทาง  
วิทยาศาสตร์ วิศวกรรม และอุตสาหกรรมแห่งประเทศทั้งสอง และจะ  
ได้ทำความพยายามในอันจะเสนอความเอื้อเฟื้อ และอำนวยความสะดวก  
เหลือที่จำเป็น ในการจัดให้มีการแสดงพิพิธภัณฑ์ เพื่อประโยชน์  
ที่กล่าวแล้ว

อภิกษุผู้ทำสมาธิจะได้ให้ข้อคำนึงโดยเฉพาะ แก่การแลกเปลี่ยนเป็นครั้งคราว การส่งหรือเขียนสาคราจารย์ บัณฑิต และผู้เชี่ยวชาญพิเศษ เพื่อแสดงปาถกถาหรือคำบรรยายในเรื่องวันธรรมของประเทศทั้งสอง

อภิกษุผู้ทำสมาธิ ต่างฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกทุกทางที่สามารถจะทำได้ เพื่อการปฏิบัติตามบทบัญญัติแห่งวัคสามวัคข้างต้นนี้

ข้อ 5

ด้วยความตกลงพร้อมกัน อภิกษุผู้ทำสมาธิจะได้ทำการแลกเปลี่ยนเป็นครั้งคราว และทำการส่งหรือเขียนผู้ทำงานคนคว่านักศึกษา และนักเรียน เพื่อศึกษาวันธรรมของประเทศทั้งสอง

อภิกษุผู้ทำสมาธิ จะได้ทำความพยายามในอันจะแลกเปลี่ยนส่งหรือเขียนนักศึกษาศิษย์ และผู้เข้าศึกษากระบวนวิชากำหนดภาคชั้น

อภิกษุผู้ทำสมาธิ ต่างฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกทุกทางที่สามารถจะทำได้ เพื่อการปฏิบัติตามบทบัญญัติแห่งวัคสองวัคข้างต้น และจะได้ให้ข้อคำนึงแก่การจัดตั้งทุนเล่าเรียน

อภิกษุผู้ทำสมาธิ แต่ละฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกเช่นเดียวกัน แก่บัณฑิตและผู้เชี่ยวชาญพิเศษของอีกฝ่ายหนึ่งซึ่งมาเพื่อศึกษาวันธรรมแห่งประเทศของตน

ข้อ 6

อภิกษุผู้ทำสมาธิจะได้ส่งเสริมกิจการของนักประพันธ์ ศิลปิน และนักศาสนา ซึ่งจะพิจารณาเห็นว่าเป็นการเกื้อกูลความสัมพันธ์ทางวันธรรมระหว่างประเทศทั้งสองให้มั่นคงแข็งแรง และจะได้ทำความพยายามในอันจะแลกเปลี่ยน ส่ง หรือเขียนบุคคลดังกล่าว

อภิกษุผู้ทำสมาธิจะได้ส่งเสริม การแสดงบทละคร การฟ้อนรำ และดนตรี ซึ่งจะพิจารณาเห็นว่าเป็นการเกื้อกูลความสัมพันธ์ทางวันธรรมระหว่างประเทศทั้งสองให้มั่นคงแข็งแรง และจะได้ทำความพยายามในอันจะแลกเปลี่ยน ส่ง หรือเขียนบุคคลและคณะบุคคลที่ประกอบารแสดงนั้น ๆ

ข้อ 1

อภิกษุเจ้าสัณณะจะได้ทำความพยายามในอันจะยิ่งความรู้และความเข้าใจซึ่งกันและกันระหว่างประเทศทั้งสองให้ซาบซึ้งยิ่งขึ้น โดยจัดให้รากลานแห่งความสัมพันธ์ทางวัฒนธรรมระหว่างประเทศทั้งสองมีคงแข็งแรง และเพื่อการนี้ จะได้ร่วมมือกันโดยสนธิสนมยิ่งในแผนการวัฒนธรรมทั้งปวง

ข้อ 2

อภิกษุเจ้าสัณณะจะได้จัดให้มีการประชุมทางวัฒนธรรมเป็นครั้งคราว เพื่ออภิปรายกันเกี่ยวกับการก้าวหน้าและการคลี่คลายแห่งวัฒนธรรมของประเทศทั้งสอง และจะได้ทำความพยายามในอันจะอำนวยความสะดวกช่วยเหลือให้แก่การประชุมที่จัดขึ้นเพื่อการดังกล่าว

ข้อ 3

อภิกษุเจ้าสัณณะจะได้ทำความพยายามในอันจะจัดตั้ง บำรุง รักษาและคลี่คลายสถานการซึ่งเกื้อกูลความสัมพันธ์ทางวัฒนธรรมระหว่างประเทศทั้งสองให้เพิ่มพูนยิ่งขึ้น และต่างฝ่ายจะได้อำนวยความสะดวกทุกทางที่สามารถจะทำได้เกี่ยวกับการนั้น

สถานการที่กล่าวถึงในข้อข้างต้นนั้น จะได้รวมถึงองค์การ วิทยาศาสตร์และองค์การอื่น ๆ ในทางวัฒนธรรม บันดิศสถาน หอสมุด พิพิธภัณฑ์สถาน สถานการเสึกสา และสถานการสุขภาพสงเคราะห์

ข้อ 4

อภิกษุเจ้าสัณณะแต่ละฝ่ายจะได้ให้ข้อคำนึงโดยเฉพาะแก่การจัดตั้ง บำรุงรักษา และคลี่คลายตำแหน่งศาสตราจารย์ในวิชาวัฒนธรรมของอีกฝ่ายหนึ่งในมหาวิทยาลัยแห่งประเทศของตน

อภิกษุเจ้าสัณณะแต่ละฝ่ายจะได้ให้ข้อคำนึงโดยเฉพาะแก่การ สอนภาสาของอีกฝ่ายหนึ่งในสถานการเสึกสาต่าง ๆ ที่เหมาะสมในประเทศของตน

ความตกลงทางวีชนิมระหว่างประเทศไทยกับประเทศญี่ปุ่น

สมเด็จพระมหากษัตริย์แห่งประเทศไทย

และ

สมเด็จพระจักรพรรดิแห่งญี่ปุ่น

มีพระราชประสงค์ที่จะทำความพยายาม ในอันจะเกิดผลการ  
จับใจวีชนิมของอาเซียนตะวันออก และในเวลาเดียวกัน ยังความ  
สัมพันธ์ทางไมตรีซึ่งมีอยู่โดยมาตุภะหว่างประเทศทั้งสอง ให้มั่นคง  
แข็งแรงยิ่งขึ้น โดยส่งเสริมความสัมพันธ์ทางวีชนิมระหว่างประเทศ  
ทั้งสองยิ่งขึ้นไป ด้วยต่างฝ่ายต่างเคารพหลักการประจำสภาพวีชนิม  
แห่งประเทศของกันและกัน และร่วมมือกันโดยสันติชนม

จึงได้ตกลงทำความตกลงทางวีชนิมเพื่อการนั้น และได้แต่งตั้ง  
ผู้มีอำนาจเต็มของแต่ละฝ่าย กล่าวคือ :

ฝ่ายสมเด็จพระมหากษัตริย์แห่งประเทศไทย :

นายดิเรก ชัยนาม เอกอัครราชทูตพิเศษผู้มีอำนาจเต็มประจำ  
พระราชสำนัก แห่งสมเด็จพระจักรพรรดิญี่ปุ่น

ฝ่ายสมเด็จพระจักรพรรดิแห่งญี่ปุ่น :

มาซาฮิโกะ คามิ รัถมนตรีว่าการกระทรวงการต่างประเทศแห่ง  
สมเด็จพระจักรพรรดิญี่ปุ่น

ผู้ซึ่ง เมื่อได้ส่งหนังสือมอบอำนาจเต็มของแต่ละฝ่ายให้แก่กัน  
และกัน และได้ตรวจเห็นว่า เป็นไปตามแบบที่ตีและถูกต้องแล้ว ได้ทำ  
ความตกลงกันเป็นข้อ ๆ ดังต่อไปนี้ :

極  
祕

ความตกลงทางวัฒนธรรมระหว่างประเทศไทยกับญี่ปุ่น



後日添附

秘

日本國「タイ」國間文化協定御批准ノ件

審査報告

謹デ今回御諮詢ノ日本國「タイ」國間文化協定御批准ノ件ヲ審査スルニ日「タイ」兩國ノ關係ハ客年末ノ同盟條約締結以來愈々緊密化シ爾來經濟的協力増進ニ關スル諸案件ノ解決ニ依リ其ノ提携ハ益々強固ト爲リタルガ更ニ兩國ノ親善關係ヲ一層不變且堅實ナラシムルガ爲ニハ特ニ兩國相互ノ認識及理解ヲ深ムルノ緊要ナルコト論ヲ俟タズ之ガ爲ニハ兩國間ニ文化協定

ヲ締結シ確固タル基礎ノ上ニ彼我ノ文化ヲ相  
互ニ紹介シ兩國間ニ文化ノ交流ヲ圖ルヲ以テ  
最モ有效ナリトシ帝國政府ニ於テハ豫テヨリ  
右ノ趣旨ヲ「タイ」國側ニ申入レタルニ同國政府  
モ之ニ賛意ヲ表シタルニ由リ之ガ案文ヲ提示  
シ協議ヲ進メタルニ幾クモナク妥結ニ達シ本  
年十月二十八日兩國全權委員間ニ其ノ調印ヲ  
了スルニ到レリ

本協定ハ帝國及「タイ」國間ニ於ケル文化關係ヲ  
規律スベキ基本的條規タルモノニシテ其ノ前

文ニ於テ兩國元首ハ兩國文化ノ本然ノ特質ヲ  
相互ニ尊重シツツ緊密ナル協力ノ下ニ兩國間  
ノ文化關係ヲ更ニ増進セシメ以テ東亞文化ノ  
興隆ニ寄與スルニ努メ併セテ兩國間ニ存在ス  
ル友好關係ヲ一層強固ナラシメンコトヲ欲ス  
ル旨ヲ掲ゲ其ノ本文ニ於テ兩國ハ兩國間ノ文  
化關係ノ基礎ヲ堅實ナラシメ以テ兩國相互ノ  
認識及理解ヲ深カラシムル様努力シ且之ガ爲  
文化ノ有ラユル部門ニ互リ最モ緊密ニ協カス  
ベキコトトシ(第一條)文化會議ノ開催其ノ他學術

藝術、宗教、厚生事業、青少年運動、放送、映畫等、各般ノ事項ニ互リ夫々兩國協力ノ態様ヲ詳細ニ規定シ(第十二條乃至第十一條)兩國ハ本協定ノ實施ニ關シ兩國間ノ聯絡ニ當ラシムル爲東京及「バンコック」ニ文化聯絡協議會ヲ設置スベク右協議會ノ組織及運用ニ關スル細目其ノ他本協定ノ實施ニ關スル細目ハ兩國ノ外交機關之ヲ協議決定スベキモノトシ(第十二條及第十三條)本協定ハ批准ヲ要シ批准書ハ成ルベク速ニ「バンコック」ニ於テ交換セララルベク本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ之ヲ

實施シ十年間有效トシ其ノ期間満了ノ一年前  
ニ之ガ廢棄ノ通告ナキトキハ爾後兩國ノ一方  
ガ廢棄ノ通告ヲ爲シタル日ヨリ一年間引續キ  
效力ヲ有スルモノトス(附)ル旨ヲ定メタリ  
按ズルニ本件ハ曩ニ屢々本院ノ議ヲ經テ締結  
セラレタル文化的協力ニ關スル諸取極ノ例ニ  
倣ヒ帝國及タイ國間ニ於テ其ノ文化關係ヲ益  
々増進セシメ併セテ其ノ友交關係ヲ一層強固  
ナラシムル爲兩國全權委員ノ調印ヲ了シタル  
協定ヲ御批准アラセラレントスルモノニシテ

其ノ趣旨ニ於テ之ヲ妥當トスベク其ノ條項ニ  
付テモ別ニ支障ノ虞ヲ認メズ仍テ本協定ハ之  
ヲ御批准アラセラレ然ルベク乃チ本件ハ此ノ  
儘可決セラルベキモノト思料ス

右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十七年十一月二十五日

樞密院書記官長堀江季雄

樞密院議長原嘉道殿

昭和十七年九月

參照

諸外國間文化條約一覽表

外務省條約局

## 例言

- 一 國際的文化關係ノ増進及規整ニ關スル條約ハ數多アルベキモ本一覽表ニハ多數國間ノモノヲ除キ特ニ二國間ノ智的及文化的協力ノ増進ヲ目的トシテ締結セラレタルモノノミヲ輯録セリ
- 一 本一覽表ハ第一次世界大戰後ヨリ現在ニ至ル迄ノ間ニ締結セラレタルモノヲ輯録セリ
- 一 條約ノ輯録ハ主トシテ國際聯盟智的協力委員會事務局發行ノ文化協定集、國際聯盟登錄條約集、帝國在外公館ヨリノ報告其ノ他ニ據リタリ
- 一 本一覽表ヲ第一表及第二表ニ分チ第一表ニ於テハ締約國ヲ「フランス」語國名ノA、B、C順ニ列舉シテ相手國名ヲ示シ其ノ下ニ第二表掲記ノ番號ヲ附シ、第二表ニ於テハ署名年月日順ニ番號ヲ附シテ配列シ條約ノ内容ヲ摘記スルコトトセリ
- 一 第二表中「内容」其ノ他ノ詳細ハ追テ刊行ノ筈ナル文化條約集ニ就キ參照セラレタシ

昭和十七年九月

條約局第一課



# 諸外國間文化條約一覽表

## 目次

第一表	.....	一頁
第二表	.....	七
1 「イタリヤ」國「フランス」國間協定	.....	七
2 「フランス」國「ルーマニア」國間條約	.....	七
3 「フランス」國「ユーゴスラヴィア」國間條約	.....	七
4 「ベルギト」國「フランス」國間協定	.....	八
5 「ウルグアイ」國「ブラジル」國間協定	.....	八
6 「フランス」國「ルクセンブルグ」國間協定及附屬聲明	.....	八
7 「フランス」國「ポーランド」國間協定	.....	八
8 「チエッコスロヴァキア」國「フランス」國間聲明	.....	八
9 「ベルギト」國「ルクセンブルグ」國間協定	.....	九
10 「ベルギト」國「ポーランド」國間協定	.....	九
11 「オランダ」國「ベルギト」國間協定	.....	九
12 「フランス」國「ノールウェー」國間協定	.....	一〇
13 「ベルギト」國「フランス」國間條約	.....	一〇
14 「ユーゴスラヴィア」國「チエッコスロヴァキア」國間聲明	.....	一〇

15	「デンマーク」國「フランス」國間協定……………	一〇
16	「チェコスロヴァキア」國「ルーマニア」國間取極……………	一一
17	「ドイツ」國「イタリア」國間協定……………	一二
18	「ポーランド」國「ユーゴスラヴィア」國間取極……………	一二
19	「ブラジル」國「アルゼンティン」國間條約……………	一二
20	「ブラジル」國「アルゼンティン」國間協定……………	一三
21	「ブラジル」國「アルゼンティン」國間條約……………	一三
22	「ブラジル」國「アルゼンティン」國間協定……………	一三
23	「ブラジル」國「ウルグアイ」國間條約……………	一三
24	「ハンガリー」國「ポーランド」國間條約……………	一三
25	「イタリア」國「オーストリー」國間條約……………	一四
26	「イタリア」國「ハンガリー」國間條約……………	一五
27	「ハンガリー」國「オーストリー」國間協定……………	一五
28	「ブルガリア」國「ポーランド」國間條約……………	一六
29	「スウェーデン」國「ポーランド」國間議定書……………	一六
30	「アルゼンティン」國「チリ」國間條約……………	一六
31	「アルゼンティン」國「ペルー」國間條約……………	一六
32	「ブルガリア」國「チェコスロヴァキア」國間聲明……………	一七
33	「スウェーデン」國「チェコスロヴァキア」國間議定書……………	一七

34	「フランス」國「オーストリー」國間協定……………	一八
35	「ドイツ」國「ハンガリー」國間協定……………	一九
36	「スウェーデン」國「フランス」國間協定……………	二〇
37	「チリ」國「ペルー」國間條約……………	二〇
38	「ルーマニア」國「ポーランド」國間條約……………	二〇
39	「オランダ」國「チェコスロヴァキア」國間協定……………	二〇
40	「フィンランド」國「ハンガリー」國間條約……………	二一
41	「フィンランド」國「エストニア」國間協定……………	二二
42	「アルゼンティン」國「チリ」國間條約……………	二四
43	「アルゼンティン」國「チリ」國間條約……………	二四
44	「アルゼンティン」國「チリ」國間條約……………	二四
45	「アルゼンティン」國「チリ」國間議定書……………	二五
46	「ドイツ」國「イタリア」國間協定……………	二五
47	「ドイツ」國「スペイン」國間協定……………	二六

第

一

表